

卒業生調査によるディプロマ・ポリシー達成の検証
－大学の学びの振り返りと卒業後の成長実感－
(2018-2020 年度卒業生対象)

活水女子大学 IR センター

今年（2022年）度は、2022年度特別事業「全学的な教学マネジメントシステムの構築」（当時 IR 委員会・教務課）の一環として大学 IR コンソーシアムに入会し、会員校共通の学生調査及び卒業生調査を実施しました。先ず2020年8月（1～31日）に、2018年度、2019年度、2020年度の卒業生を対象とした卒業生調査を実施しました。本稿はその調査結果をまとめた報告書です。具体的には、本学のアセスメント・ポリシーに則り「大学 IR コンソーシアム卒業生調査」を評価指標として活用し、大学全体のディプロマ・ポリシー及び学科のディプロマ・ポリシーそれぞれの達成について検証しました。その結果、大学全体及び学科のディプロマ・ポリシーは達成されていると推察されました。ただし、大学 IR コンソーシアム卒業生調査は卒業生本人による自己評価ですので、それだけでディプロマ・ポリシーの達成を十分に検証することはできません。検証が不十分な部分は他のアセスメント・ポリシー評価指標で補う等、客観的な評価指標も用いて多面的に検証する必要があります。また、本調査では、本学の研究・教育に対する満足度、大学時代に身につける能力の重要性、大学時代に熱心に取り組んだものに関しても聞いていますのでその結果も合わせて掲載しました。

本調査は、就職課が実施している「卒業生アンケート」（紙媒体）と共に「大学 IR コンソーシアム卒業生調査」の QR コードが掲載された案内を同封して、2022年7月末日に2018年度、2019年度、2020年度の卒業生（全学科）へ送付されました（818通）。卒業生調査の実施形態は Web 調査です。実施期限の8月末日までに89の回答が得られました（回収率は約11%）。

さらに、今年（2022年）度は2022年10月27日～2023年1月23日に1年生と3年生を対象とした学生調査（一年生調査・上級生調査）を実施致しました。今後、他のアセスメント・ポリシー評価指標とも紐付けて、さらに本学学生の成長を追跡すると共に3つのポリシー（AP, CP, DP）の検証を行っていく予定です。

IR センター長 池田光壱

【2018年度、2019年度、2020年度卒業生 回答者の内訳（計89名）】

学部・学科	卒業年度			総計
	2018年度	2019年度	2020年度	
文学部英語学科	3	3	3	9
文学部現代日本文化学科	1	3	0	4
文学部人間関係学科	0	2	0	2
音楽学部音楽学科	2	2	0	4
健康生活学部食生活健康学科	7	7	3	17
健康生活学部生活デザイン学科	2	0	2	4
健康生活学部子ども学科	6	4	4	14
看護学部看護学科	8	17	10	35
総計	29	38	22	89

【現在の業種（回答数計83）】

学科	事務・ 企画職	営業職	販売・ サービス職	専門職（会計士、 税理士、弁護士、 司法書士、医師、 教員など）	技術・ 研究職	その他
英語学科	4	0	1	4	0	0
現代日本文化学科	1	0	0	2	0	0
人間関係学科	0	1	0	0	0	0
音楽学科	0	0	2	1	1	0
食生活健康学科	1	0	2	11	1	1
生活デザイン学科	0	1	0	1	2	0
子ども学科	1	0	0	9	0	3
看護学科	0	0	0	29	0	4

目次

1. ディプロマ・ポリシーの検証	5
1-1. 大学全体のディプロマ・ポリシー達成の検証（機関レベル）	5
1-2. 学科ディプロマ・ポリシー達成の検証（学位プログラムレベル）	7
1-3. 卒業年度別の比較	24
2. 教育・研究の満足度について	30
2-1. 年度別	30
2-2. 学科別	30
3. 大学生活全般の満足度について	31
3-1. 年度別	31
3-2. 学科別	31
4. 勤務外学習時間について	32
5. 大学時代に身に付ける能力の重要性について	33
6. 大学時代に熱心に取り組んだもの	52

1. ディプロマ・ポリシーの検証

大学 IR コンソーシアムの調査では「在学中を振り返って、以下の能力や知識はどのように変化しましたか。」という質問がある。「以下の能力」とは、「一般的な教養」「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「批判的に考える能力」「異文化の人々に関する知識」「リーダーシップの能力」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「異文化の人々と協力する能力」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」「文章表現の能力」「外国語の運用能力」「コミュニケーションの能力」「プレゼンテーションの能力」「数理的な能力」「コンピュータの操作能力」「時間を効果的に利用する能力」「グローバルな問題の理解」「就職に向けた情報収集能力」の 20 項目がある。そこで、これら 20 項目と活水女子大学のディプロマ・ポリシー（以下 DP と略記）の記述とを紐付けることによって DP 達成の検証を試みた。

1-1. 大学全体のディプロマ・ポリシー達成の検証（機関レベル）

① DP1（建学の精神）：本学の建学の精神を理解し、自らも世界観と人間観について深く思索・探究する。

【検証に用いる項目】：DP1 を検証する質問項目が無いので、他の評価指標で検証する必要がある（学修達成度セルフチェックなど）

② DP2（人間としての尊厳）：自分と他者の個人としての尊厳を重んじ、平和で民主的な社会の担い手になれる。

【検証に用いる項目】：DP2 を検証する質問項目が無いので、他の評価指標で検証する必要がある（学修達成度セルフチェックなど）

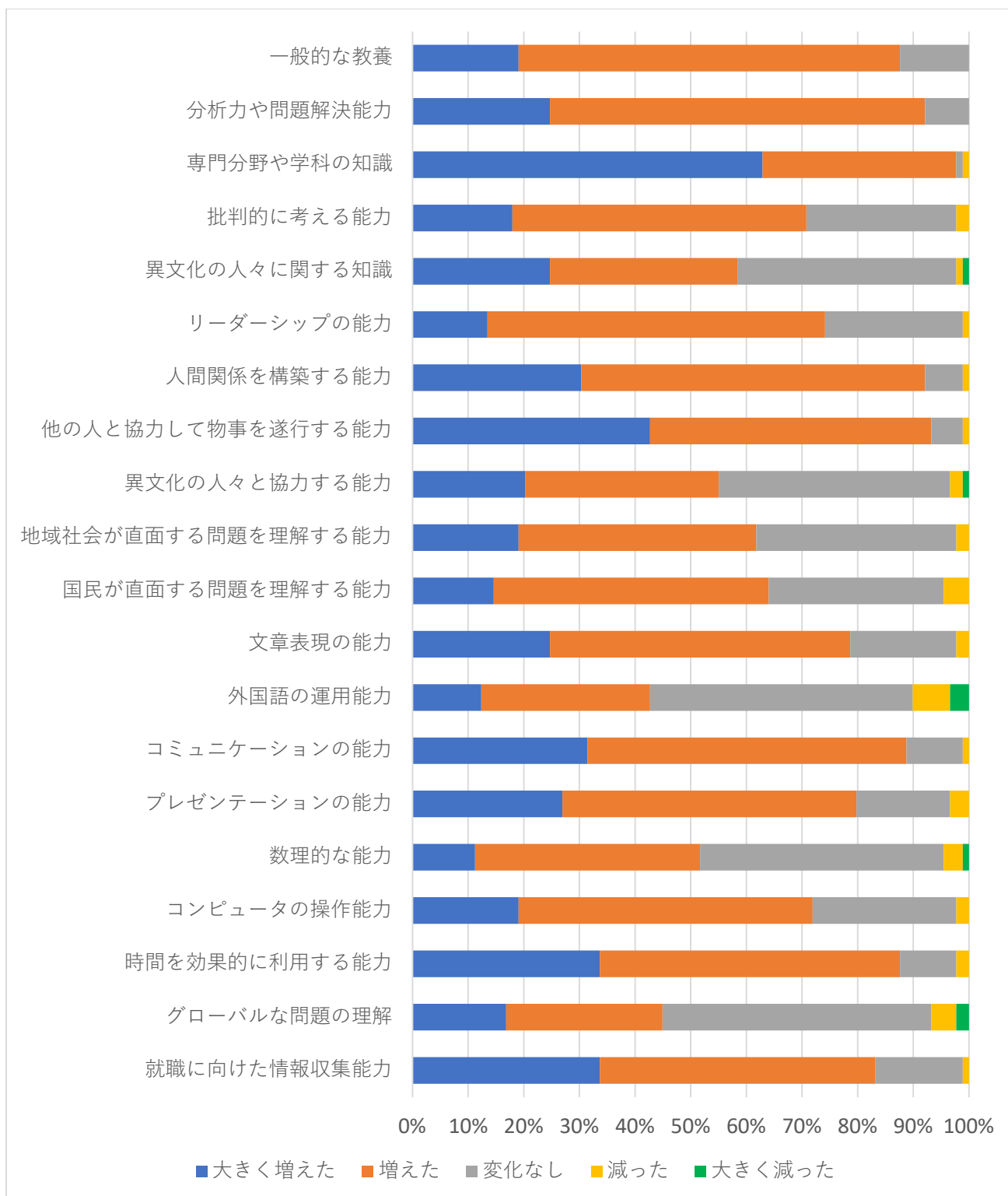
③ DP3（職業人）：広い教養と高等教育で培われた専門的知識や技能を具えて、職業人として経済的に独立していける。

【検証に用いる項目】：「一般的な教養」「専門分野や学科の知識」「就職に向けた情報収集能力」

④ DP4（広い視野に立つ社会人）：生涯学習の展望に立って学び続け、他者と共働して、国際的な視野を持つ社会人として、地域や人類社会の福祉と発展に貢献する意志を持つ。

【検証に用いる項目】：「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「異文化の人々と協力する能力」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」「外国語の運用能力」「コミュニケーションの能力」「グローバルな問題の理解」

【質問】 在学中を振り返って、以下の能力や知識はどのように変化しましたか。



1-2. 学科ディプロマ・ポリシー達成の検証（学位プログラムレベル）

① 英語学科

DP1. 他者の意見や価値観を尊重することができ、国際的視野に立って連携して社会に貢献する力を備えている。

【検証に用いる項目】：「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「異文化の人々と協力する能力」「グローバルな問題の理解」

DP2. 英語圏の国々をはじめとする諸外国の言語・文学・文化を学び、その背景にある社会や歴史に関する知識を修得している。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」「批判的に考える能力」「異文化の人々に関する知識」「異文化の人々と協力する能力」「外国語の運用能力」「コミュニケーションの能力」

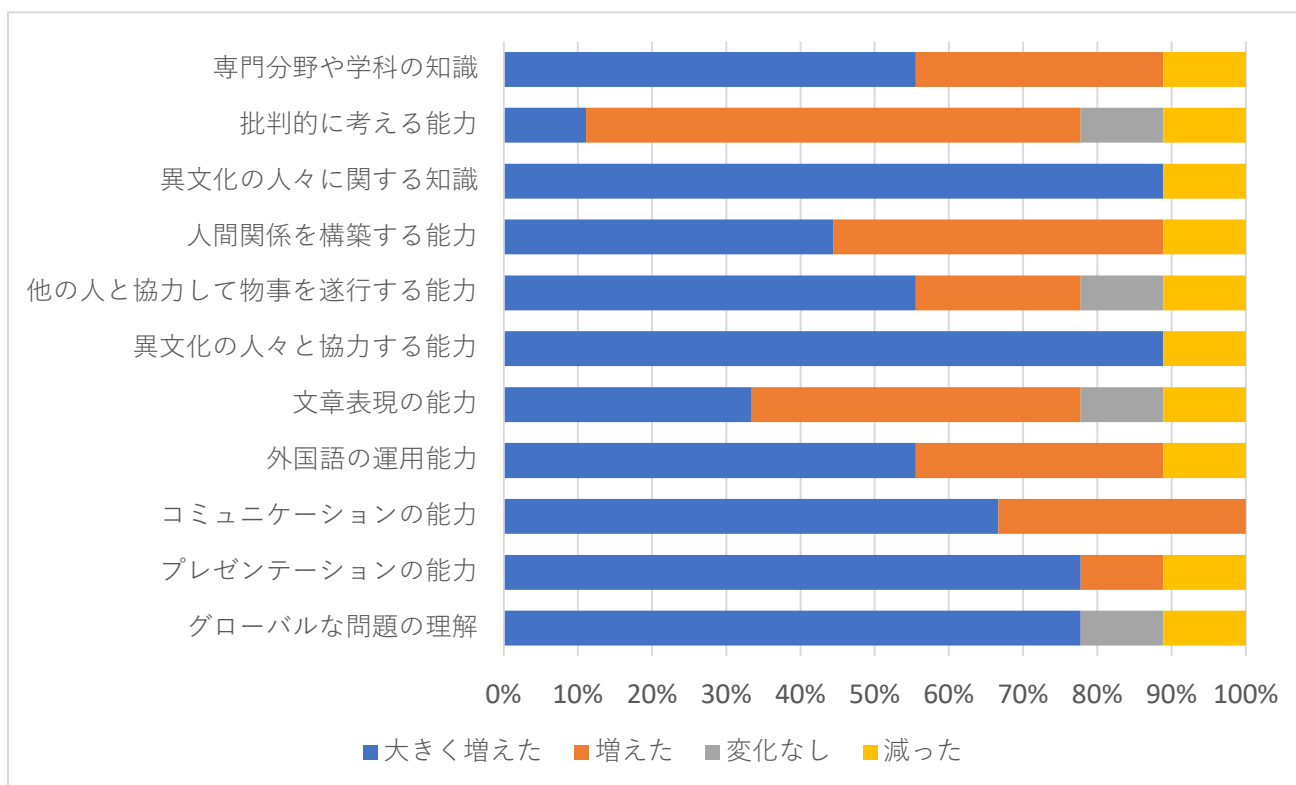
DP3. コミュニケーションのための英語運用能力を修得している。

【検証に用いる項目】：「外国語の運用能力」「コミュニケーションの能力」

DP4. 明晰かつ批判的に思考することができ、論文、発表として表現できる。

【検証に用いる項目】：「批判的に考える能力」「文章表現の能力」「外国語の運用能力」「プレゼンテーションの能力」

【英語学科】



(簡易集計表：数字は人数)

項目	大きく増えた	増えた	変化なし	減った
専門分野や学科の知識	5	3	0	1
批判的に考える能力	1	6	1	1
異文化の人々に関する知識	8	0	0	1
人間関係を構築する能力	4	4	0	1
他の人と協力して物事を遂行する能力	5	2	1	1
異文化の人々と協力する能力	8	0	0	1
文章表現の能力	3	4	1	1
外国語の運用能力	5	3	0	1
コミュニケーションの能力	6	3	0	0
外国語の運用能力	7	1	0	1
グローバルな問題の理解	7	0	1	1

② 日本文化学科

DP1. 日本文化に関わる事象の特徴・特色に関心を持ち、それを発見しようとし、それを応用して社会に貢献しようとする態度を身につけている。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」

DP2. 日本語・日本文学・日本史・日本の地域・日本の社会を包摂する日本文化の基本的知識をもち、その構造を理解している。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」

DP3. 日本文化に関わる高度な知識・理解・表現力に基づいて、国語教員・日本語教員・司書として必要な専門的能力を修得し、あるいは地域の課題を解決する提案や組織の経営に関わる企画を作成し、実行に移す能力を獲得している。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」「文章表現の能力」「プレゼンテーションの能力」

DP4. 日本文化についての知識・理解をもとに、日本国内外の地域や社会の問題点に気がつき、解決する方法を考える志向を身につけている。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」「グローバルな問題の理解」

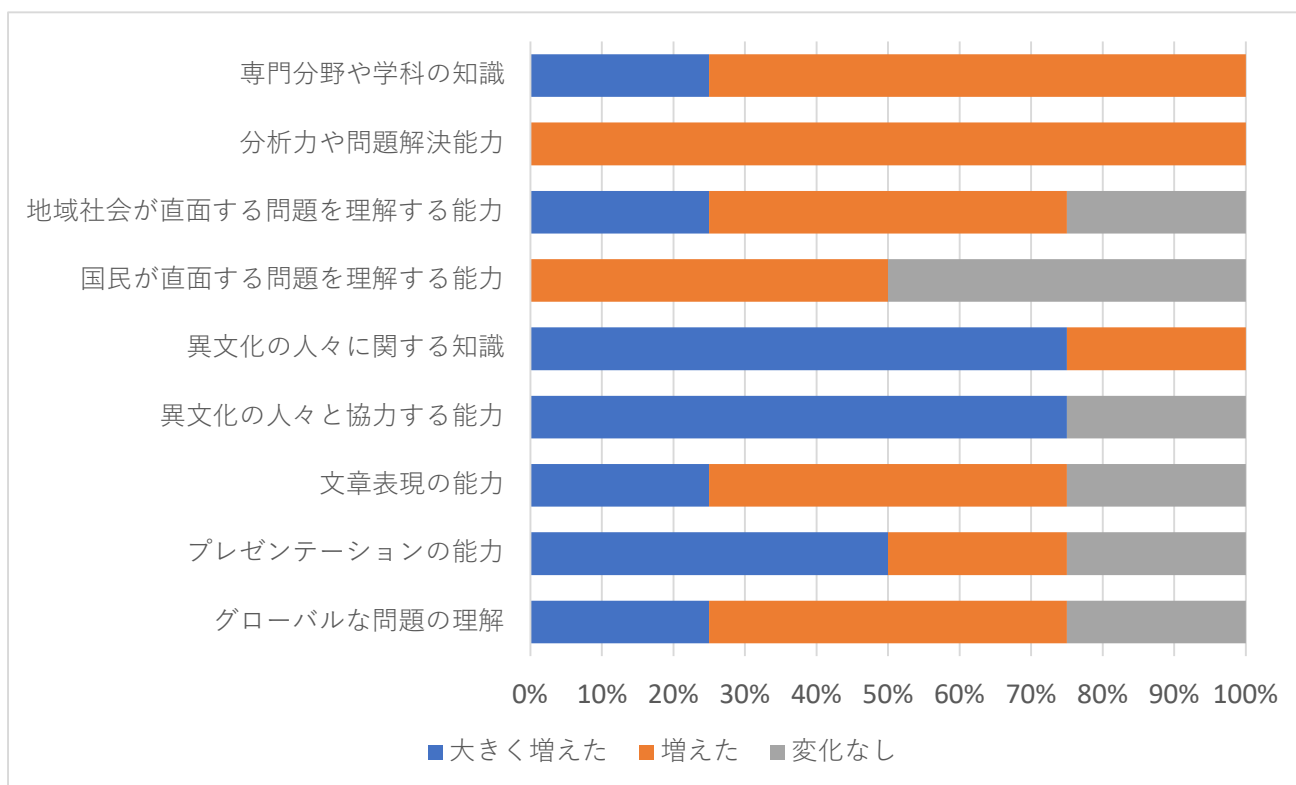
DP5. 日本文化を踏まえて異なる文化や異なる思考を同等の価値を持つものとして評価することができる。

【検証に用いる項目】：「異文化の人々に関する知識」「異文化の人々と協力する能力」

DP6. 日本文化について考察して、その全体または部分を表現できる。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」

【日本文化学科】



(簡易集計表)

項目	大きく増えた	増えた	変化なし
専門分野や学科の知識	1	3	0
分析力や問題解決能力	0	4	0
地域社会が直面する問題を理解する能力	1	2	1
国民が直面する問題を理解する能力	0	2	2
異文化の人々に関する知識	3	1	0
異文化の人々と協力する能力	3	0	1
文章表現の能力	1	2	1
プレゼンテーションの能力	2	1	1
グローバルな問題の理解	1	2	1

③ 音楽学科

DP1. 専門技術と音楽知識に関心を持つとともに、体得する姿勢を持ち、自らの音楽キャリアを築くための社会人としての力を身に付けている。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」「就職に向けた情報収集能力」

DP2. 専攻する領域、多様な音楽分野に関する体系的な知識を持っている。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」

DP3. 専攻する領域に必要な技術を持ち、問題解決に応用できる能力を身に付ける。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」

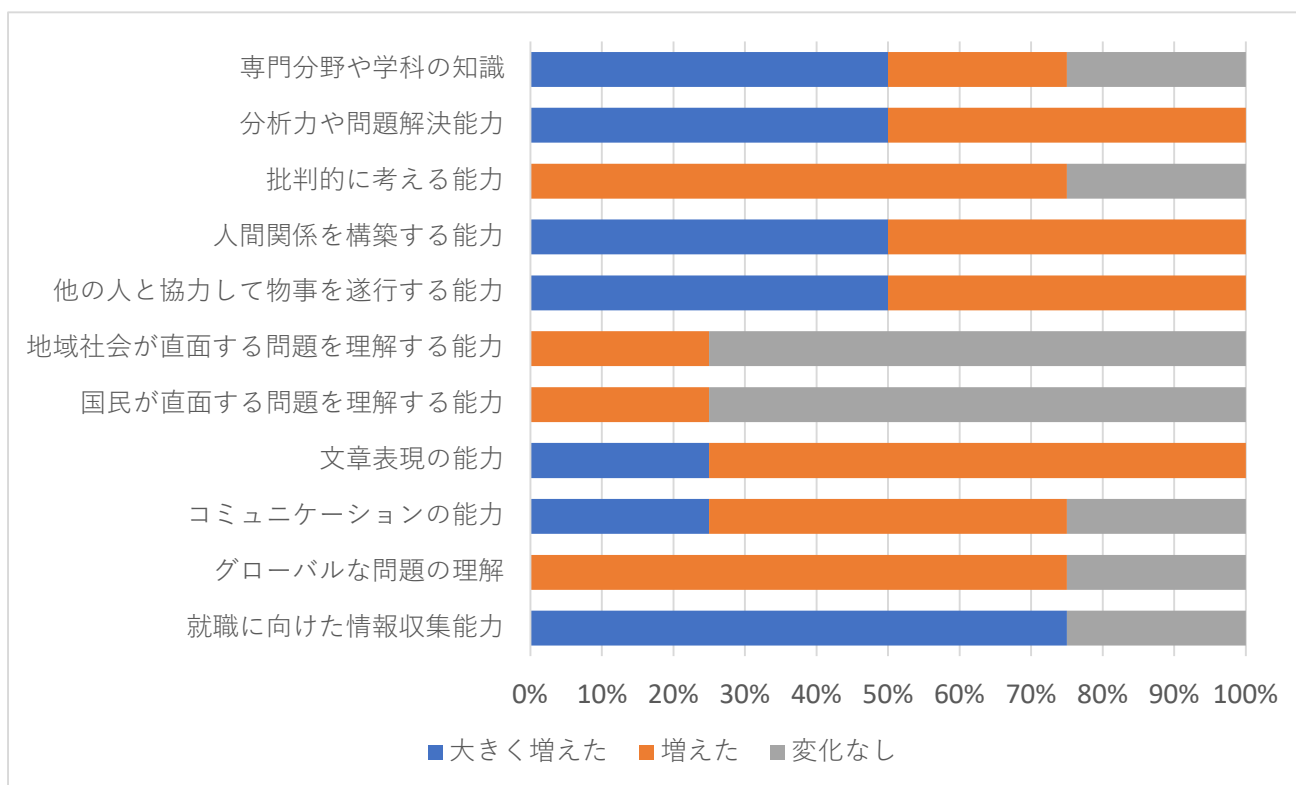
DP4. 音楽の様々な領域で協力して創り上げるための専門技術、コミュニケーション能力、文章能力を持つ。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「文章表現の能力」「コミュニケーションの能力」

DP5. 専攻分野および社会の事象を多角的に判断する力を持ち、自身で思考することができる。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「批判的に考える能力」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」「グローバルな問題の理解」

【音楽学科】



(簡易集計表)

項目	大きく増えた	増えた	変化なし
専門分野や学科の知識	2	1	1
分析力や問題解決能力	2	2	0
批判的に考える能力	0	3	1
人間関係を構築する能力	2	2	0
他の人と協力して物事を遂行する能力	2	2	0
地域社会が直面する問題を理解する能力	0	1	3
国民が直面する問題を理解する能力	0	1	3
文章表現の能力	1	3	0
コミュニケーションの能力	1	2	1
グローバルな問題の理解	0	3	1
就職に向けた情報収集能力	3	0	1

④ 食生活健康学科

DP1. 人々の健康と幸福に寄与したいという熱意を有する。

【検証に用いる項目】：「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」

DP2. 専門的知識やスキル向上のために自己研鑽を惜しまない姿勢を有する。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」「勤務時間外学習時間（一週間あたり）」

DP3. 人間の健康の維持・増進および疾病の発症予防・重症化予防に関する専門的知識を有する。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」

DP4. 疾病の発症予防・重症化予防の栄養管理ができる。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」

DP5. 対象者に応じて給食経営管理ができる。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」

DP6. 管理栄養士として適切に他者とコミュニケーションをとることができる。

【検証に用いる項目】：「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「コミュニケーションの能力」

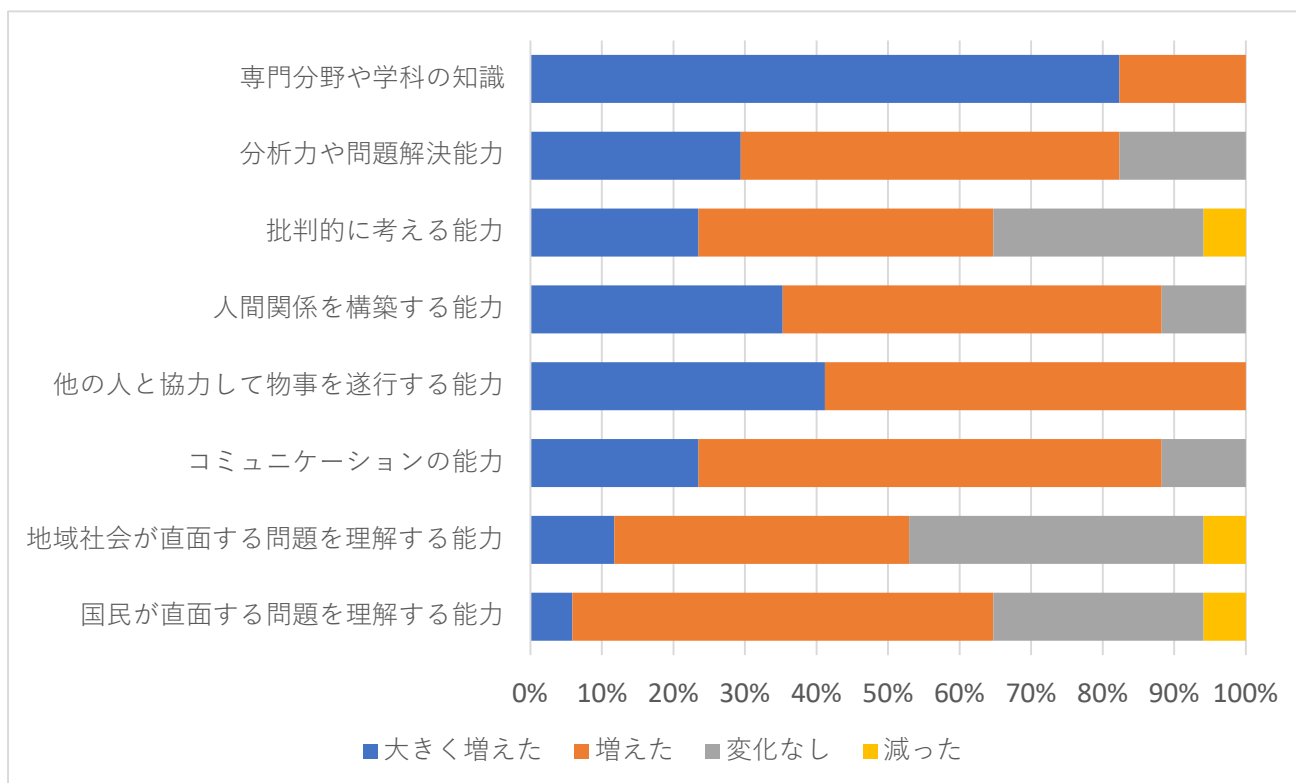
DP7. 科学的な根拠に基づいて対象者の健康状態を分析できる。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」

DP8. 栄養ケアプランを立てることができる。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「批判的に考える能力」

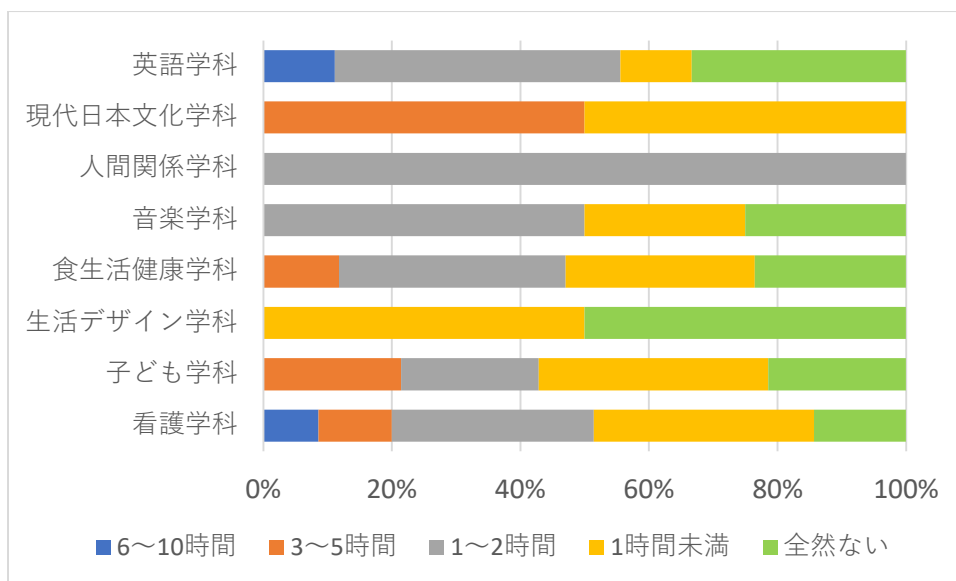
【食生活健康学科】



(簡易集計表)

項目	大きく増えた	増えた	変化なし	減った
専門分野や学科の知識	14	3	0	0
分析力や問題解決能力	5	9	3	0
批判的に考える能力	4	7	5	1
人間関係を構築する能力	6	9	2	0
他の人と協力して物事を遂行する能力	7	10	0	0
コミュニケーションの能力	4	11	2	0
地域社会が直面する問題を理解する能力	2	7	7	1
国民が直面する問題を理解する能力	1	10	5	1

▶勤務外学習時間



(簡易集計表)

学科	6~10 時間	3~5 時間	1~2 時間	1 時間未満	全然ない
食生活健康学科	0	2	6	5	4
英語学科	1	0	4	1	3
現代日本文化学科	0	2	0	2	0
人間関係学科	0	0	2	0	0
音楽学科	0	0	2	1	1
生活デザイン学科	0	0	0	2	2
子ども学科	0	3	3	5	3
看護学科	3	4	11	12	5

⑤ 生活デザイン学科

DP1. 地域・社会において、生活の向上のために貢献する意志と姿勢を有している。

【検証に用いる項目】：「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」

DP2. 生活デザインに関する専門知識を修得している。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」

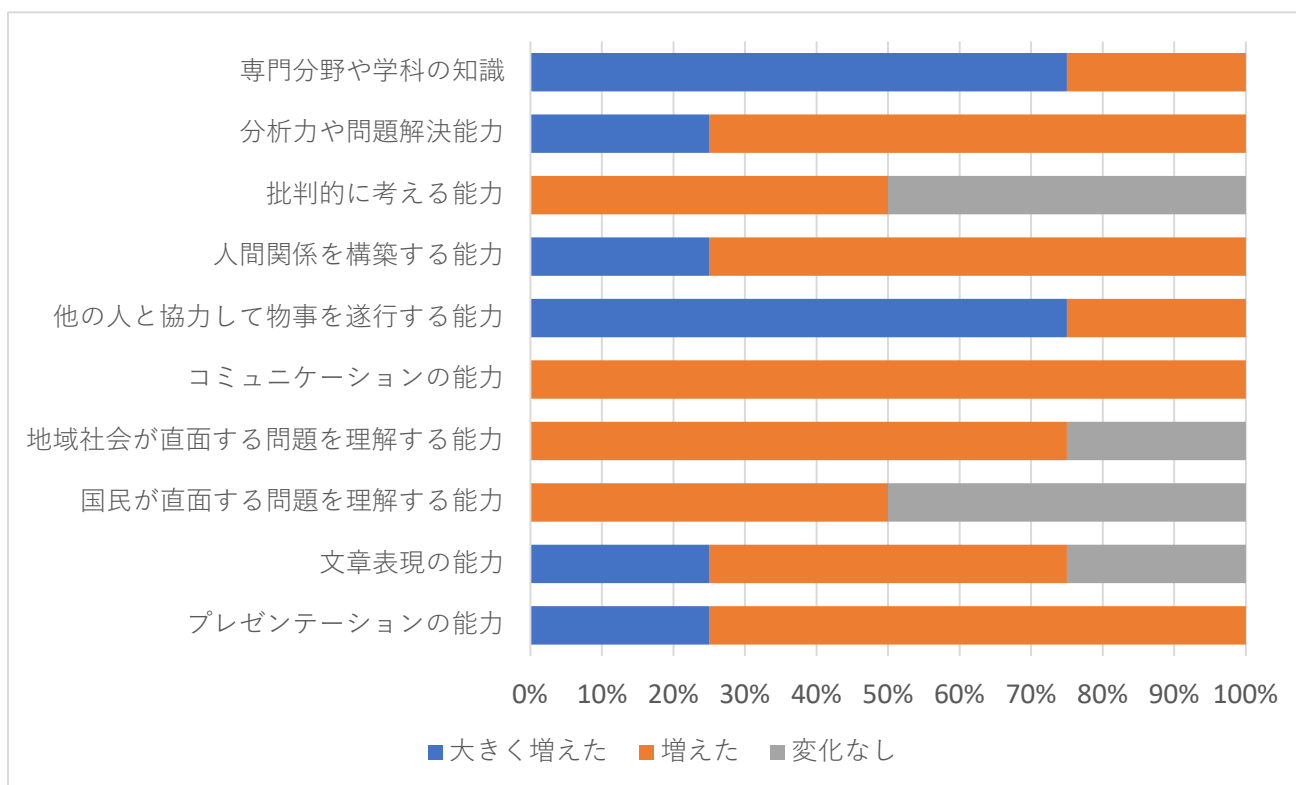
DP3. 生活デザインに関する専門技術を修得している。

【検証に用いる項目】：「専門分野や学科の知識」

DP4. 生活者の視点から問題を発見し、解決し、表現する能力、およびコミュニケーション能力を修得している。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「批判的に考える能力」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」「文章表現の能力」「コミュニケーションの能力」「プレゼンテーションの能力」

【生活デザイン学科】



(簡易集計表)

項目	大きく増えた	増えた	変化なし
専門分野や学科の知識	3	1	0
分析力や問題解決能力	1	3	0
批判的に考える能力	0	2	2
人間関係を構築する能力	1	3	0
他の人と協力して物事を遂行する能力	3	1	0
コミュニケーションの能力	0	4	0
地域社会が直面する問題を理解する能力	0	3	1
国民が直面する問題を理解する能力	0	2	2
文章表現の能力	1	2	1
プレゼンテーションの能力	1	3	0

⑥ 子ども学科

DP1. ボランティア活動や地域貢献における様々な人間関係を通して自己管理および生涯にわたり、学ぶ姿勢を継続できる。

【検証に用いる項目】：「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」「コミュニケーションの能力」「勤務時間外学習時間（一週間あたり）」

DP2. 現代社会において子どもや家庭の抱えている生活問題とその解決の在り方を社会全体との関係性のなかで理解する。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「批判的に考える能力」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」

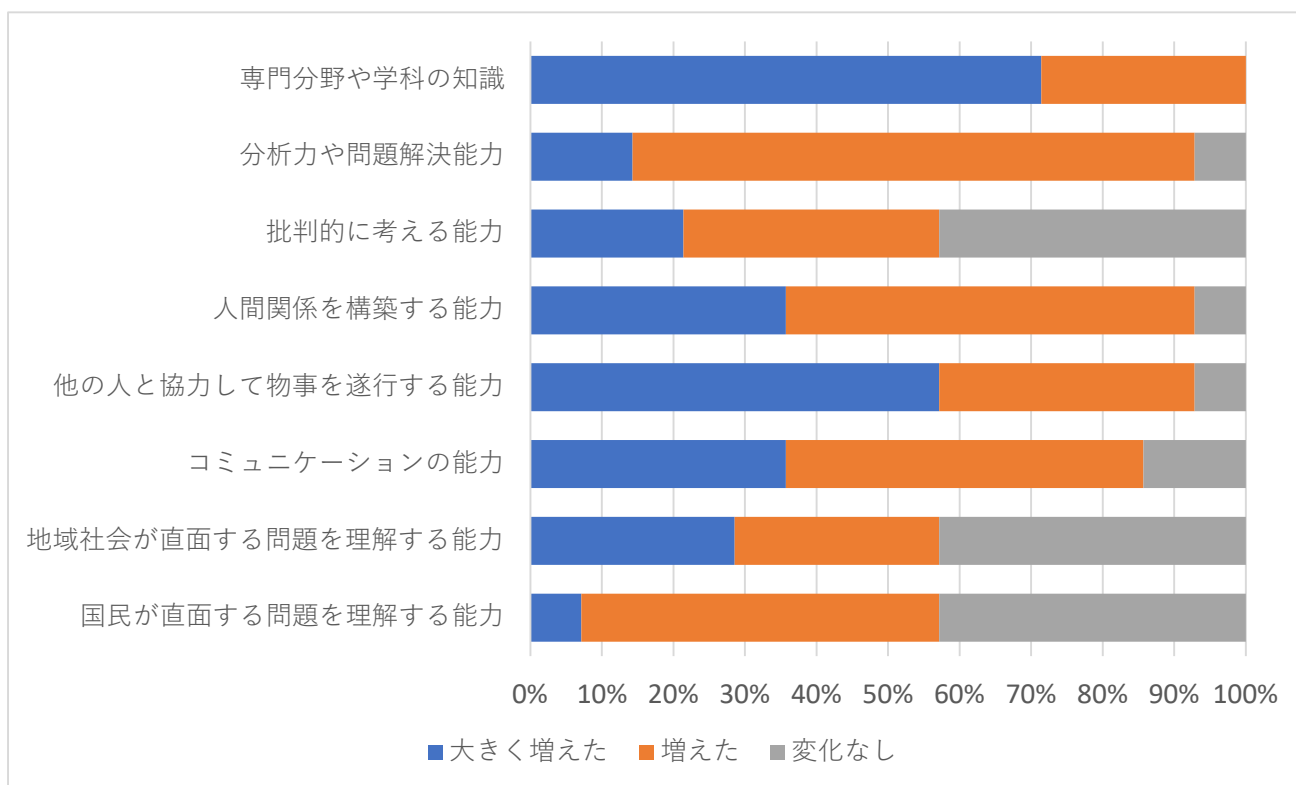
DP3. 実習を通して総合的な保育・教育実践力を身に着け、実践し、保育・教育、子育て支援の場において現実的で適切な対応ができる。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「批判的に考える能力」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「コミュニケーションの能力」

DP4. 子どもの成長・発達についての確かな知識と技術を有し、主体的な学習の中で培われる創造的思考力を用い、問題解決に向けた実践に活かすことができる。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」

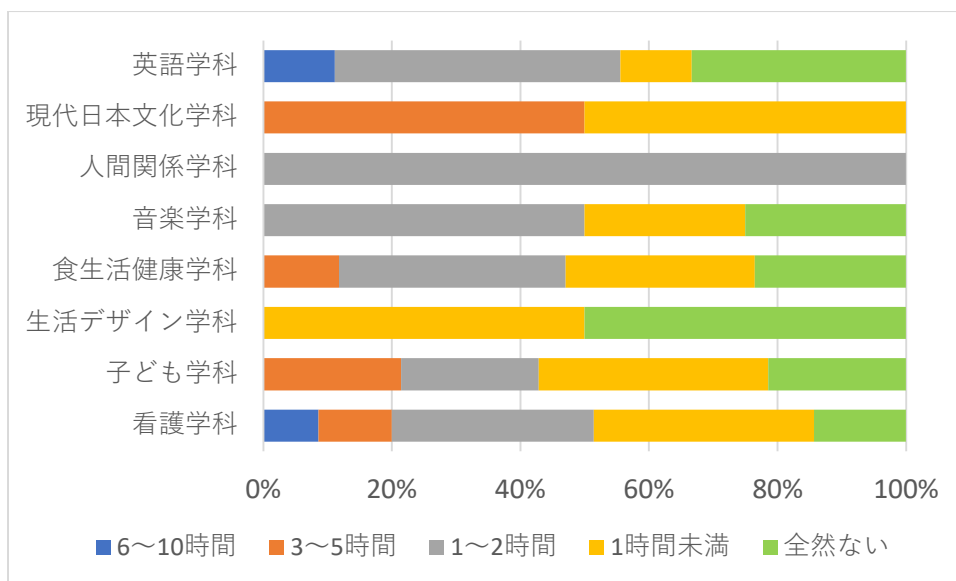
【子ども学科】



(簡易集計表)

項目	大きく増えた	増えた	変化なし
専門分野や学科の知識	10	4	0
分析力や問題解決能力	2	11	1
批判的に考える能力	3	5	6
人間関係を構築する能力	5	8	1
他の人と協力して物事を遂行する能力	8	5	1
コミュニケーションの能力	5	7	2
地域社会が直面する問題を理解する能力	4	4	6
国民が直面する問題を理解する能力	1	7	6

▶勤務外学習時間



(簡易集計表)

学科	6~10 時間	3~5 時間	1~2 時間	1 時間未満	全然ない
子ども学科	0	3	3	5	3
英語学科	1	0	4	1	3
現代日本文化学科	0	2	0	2	0
人間関係学科	0	0	2	0	0
音楽学科	0	0	2	1	1
食生活健康学科	0	2	6	5	4
生活デザイン学科	0	0	0	2	2
看護学科	3	4	11	12	5

⑦ 看護学科

DP1. キリスト教の理念に基づく全人的理解を基盤とし、人間の尊厳を重んじ、人権の擁護ができる。

【検証に用いる項目】：「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」「グローバルな問題の理解」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「コミュニケーションの能力」

DP2. 対象となる人々やその家族、地域の人々の健康状態を把握し、看護を計画的に展開することができる。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「批判的に考える能力」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「国民が直面する問題を理解する能力」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「コミュニケーションの能力」

DP3. 特定の健康問題に対応する基本的な実践ができる。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」

DP4. チームの目標達成や成長に向けて自己の責任・役割を理解し、メンバーシップを発揮しメンバーと協働することができる。また、チームの目標達成や成長に向けてメンバーの意識を高め、リーダーシップを発揮し集団の成果を上げるためにチームに働きかけることができる。

【検証に用いる項目】：「リーダーシップの能力」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「コミュニケーションの能力」

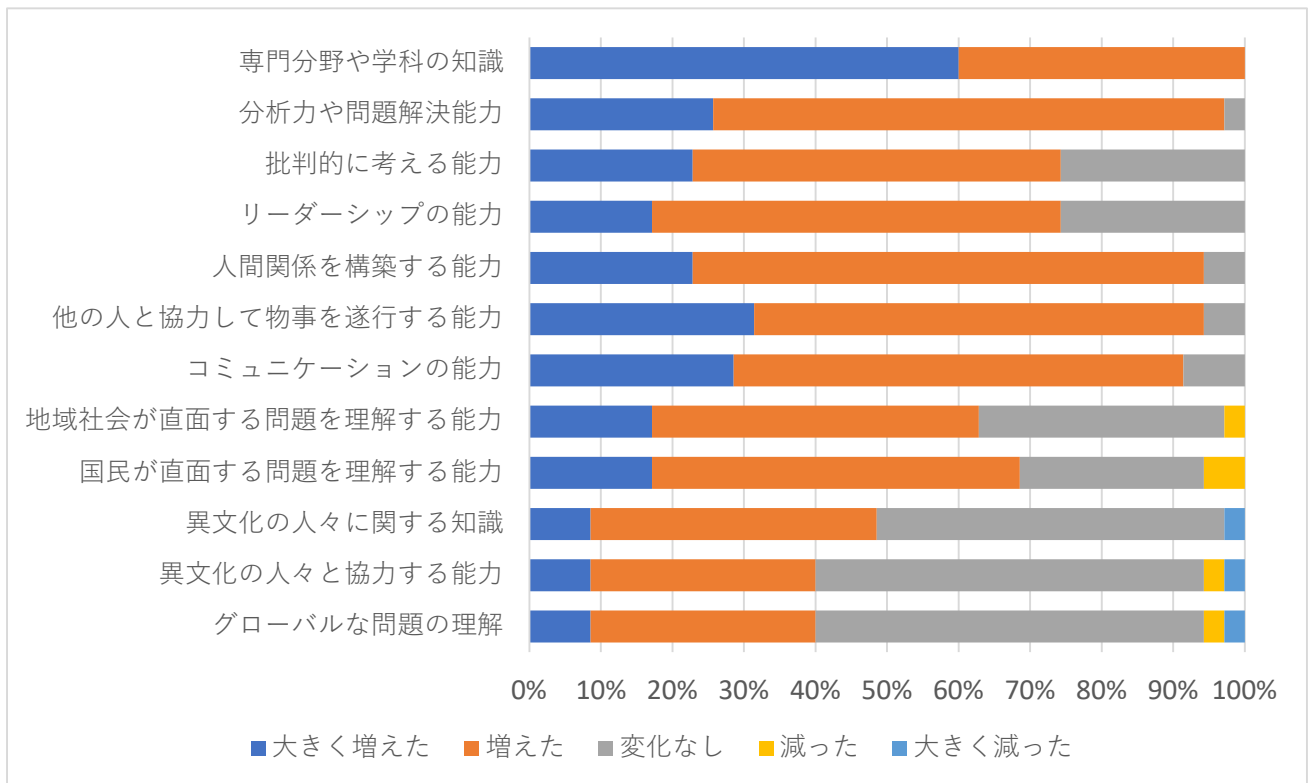
DP5. 国内外における看護の多様化に関心を寄せることができる。

【検証に用いる項目】：「異文化の人々に関する知識」「異文化の人々と協力する能力」「グローバルな問題の理解」

DP6. 生涯にわたり自己研鑽しつづけることができるように、主体的に学修に取り組む力を身につけることができる。また、看護研究を通して、得られた研究成果をもとに、看護実践に活用できるとともに、看護研究のプロセスを実施できる。

【検証に用いる項目】：「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「批判的に考える能力」「勤務時間外学習時間（一週間あたり）」

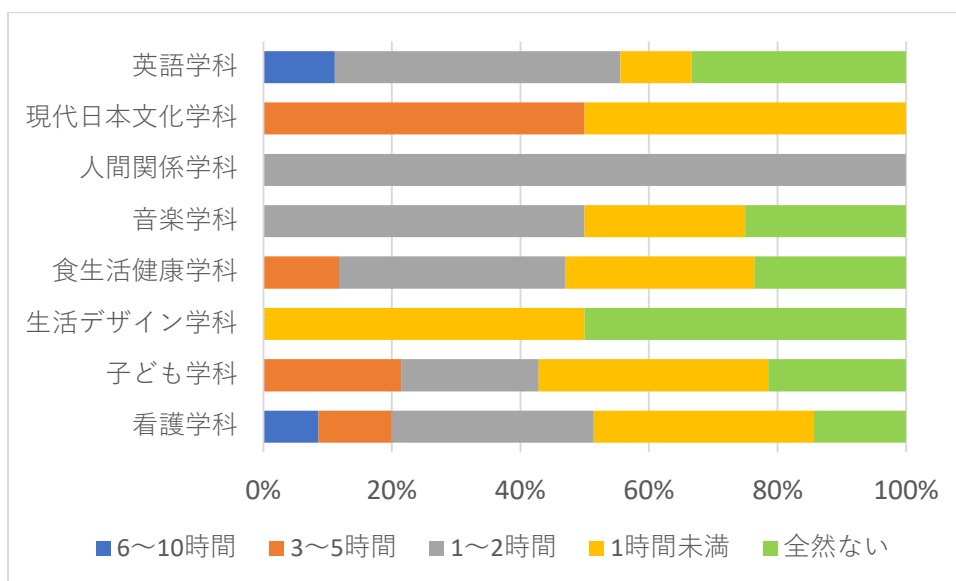
【看護学科】



(簡易集計表)

項目	大きく 増えた	増えた	変化なし	減った	大きく 減った
専門分野や学科の知識	21	14	0	0	0
分析力や問題解決能力	9	25	1	0	0
批判的に考える能力	8	18	9	0	0
リーダーシップの能力	6	20	9	0	0
人間関係を構築する能力	8	25	2	0	0
他の人と協力して物事を遂行する能力	11	22	2	0	0
コミュニケーションの能力	10	22	3	0	0
地域社会が直面する問題を理解する能力	6	16	12	1	0
国民が直面する問題を理解する能力	6	18	9	2	0
異文化の人々に関する知識	3	14	17	0	1
異文化の人々と協力する能力	3	11	19	1	1
グローバルな問題の理解	3	11	19	1	1

▶勤務外学習時間

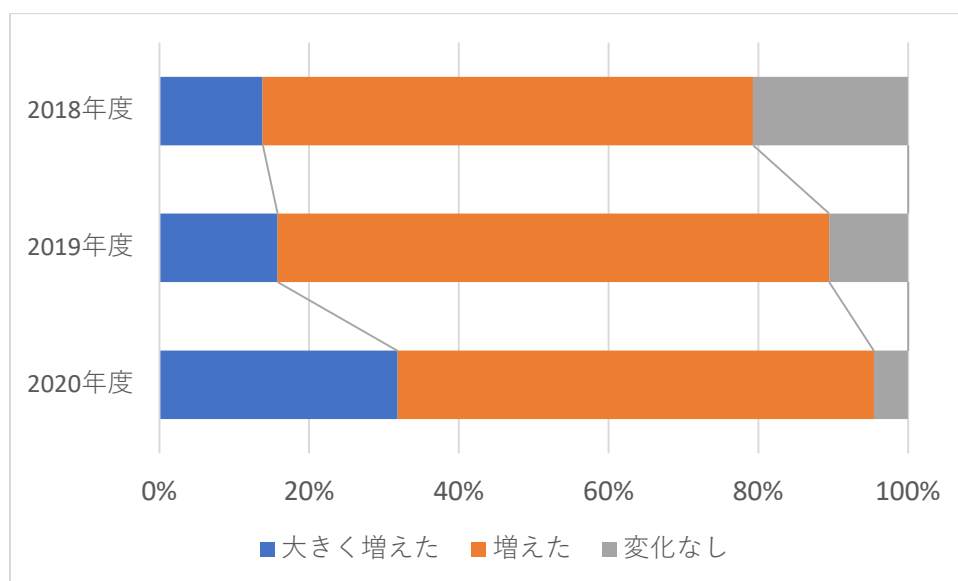


(簡易集計表)

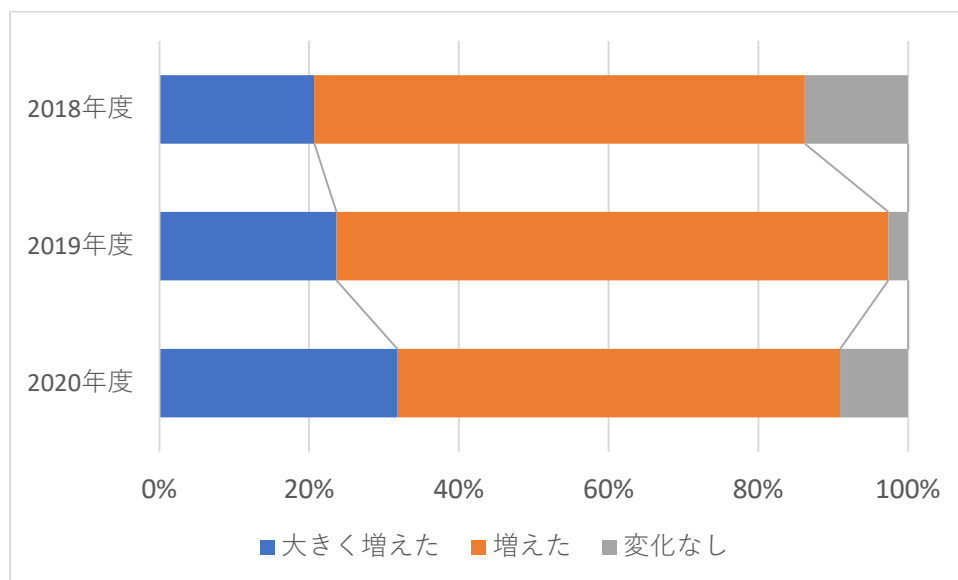
学科	6~10 時間	3~5 時間	1~2 時間	1 時間未満	全然ない
看護学科	3	4	11	12	5
英語学科	1	0	4	1	3
現代日本文化学科	0	2	0	2	0
人間関係学科	0	0	2	0	0
音楽学科	0	0	2	1	1
食生活健康学科	0	2	6	5	4
生活デザイン学科	0	0	0	2	2
子ども学科	0	3	3	5	3

1-3. 卒業年度別の比較

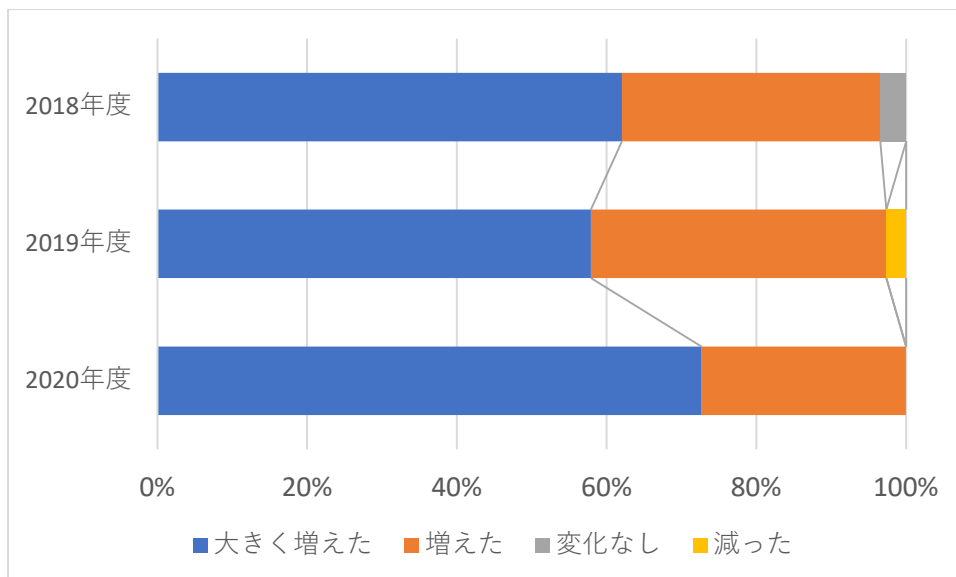
①一般的な教養



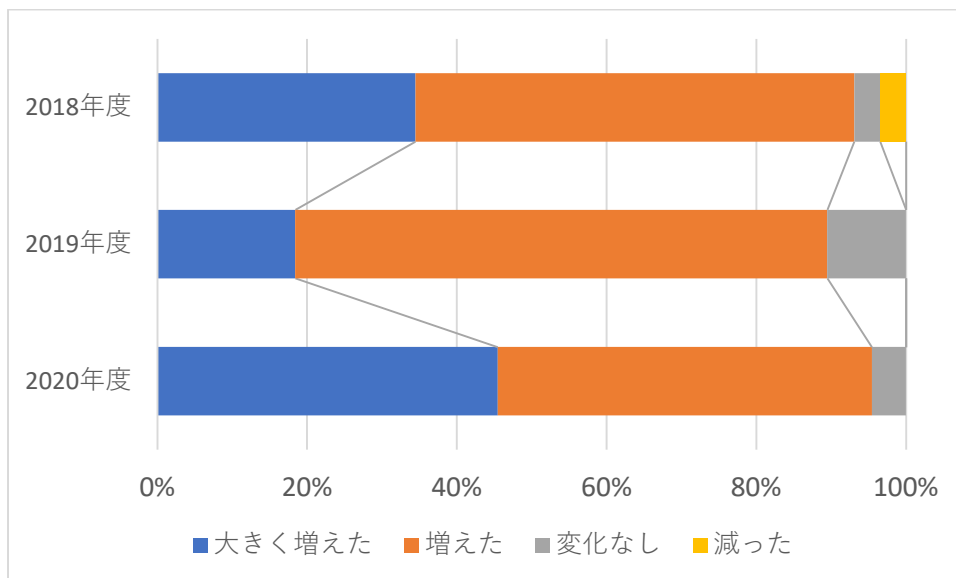
②分析力や問題解決能力



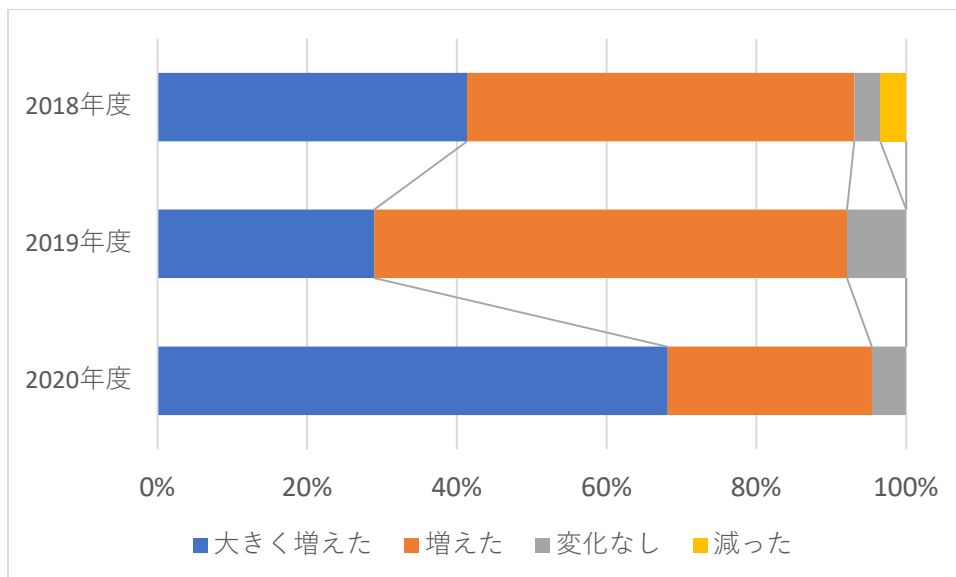
③専門分野や学科の知識



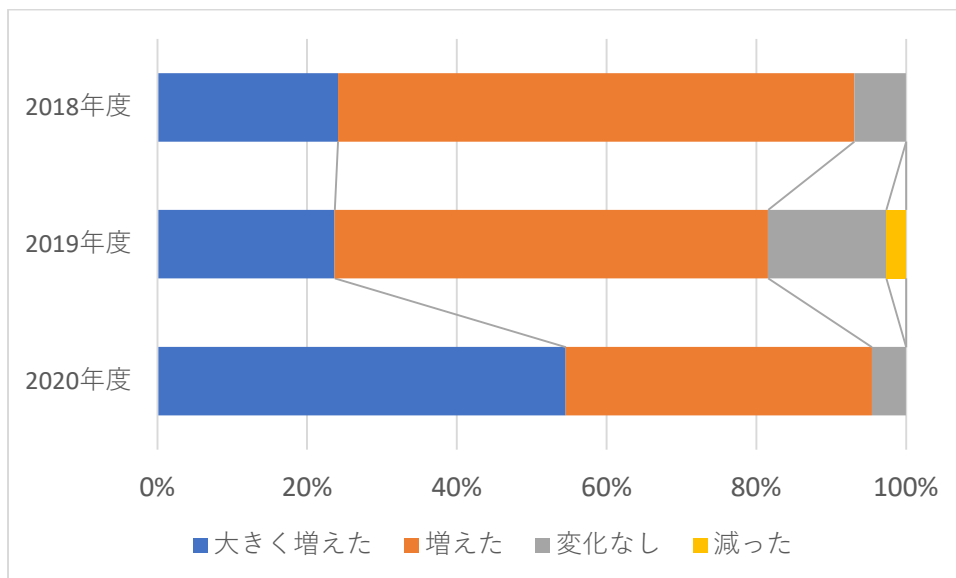
④人間関係を構築する能力



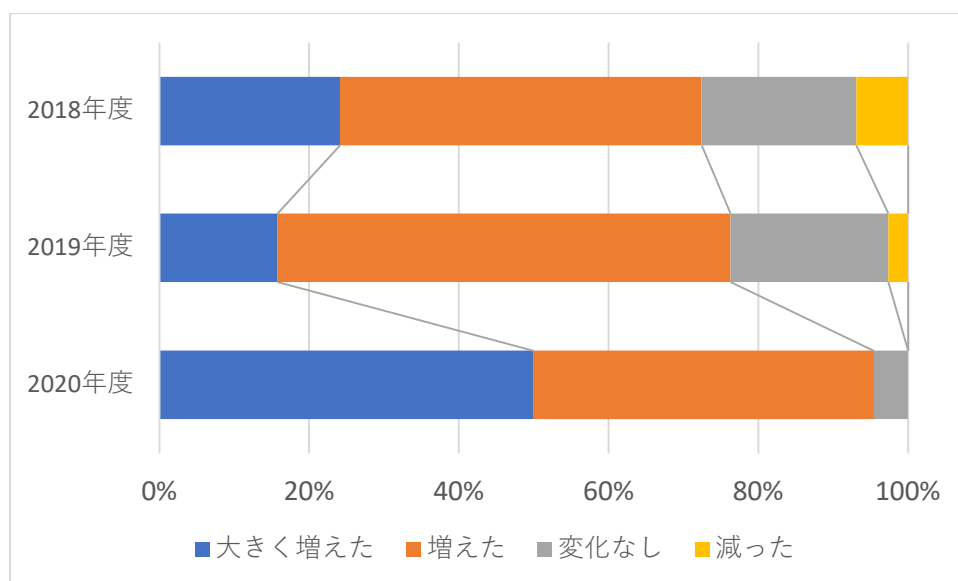
⑤他の人と協力して物事を遂行する能力



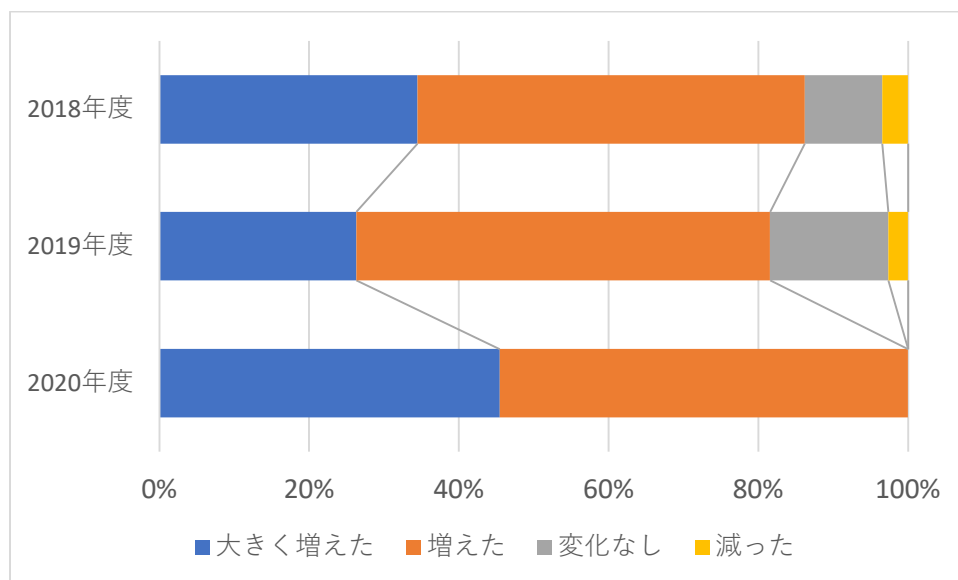
⑥コミュニケーションの能力



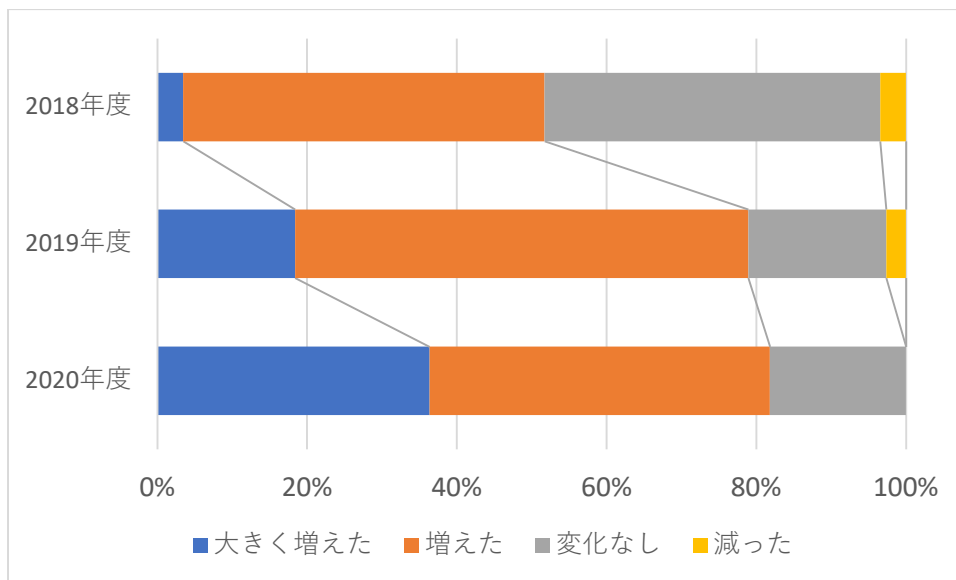
⑦プレゼンテーションの能力



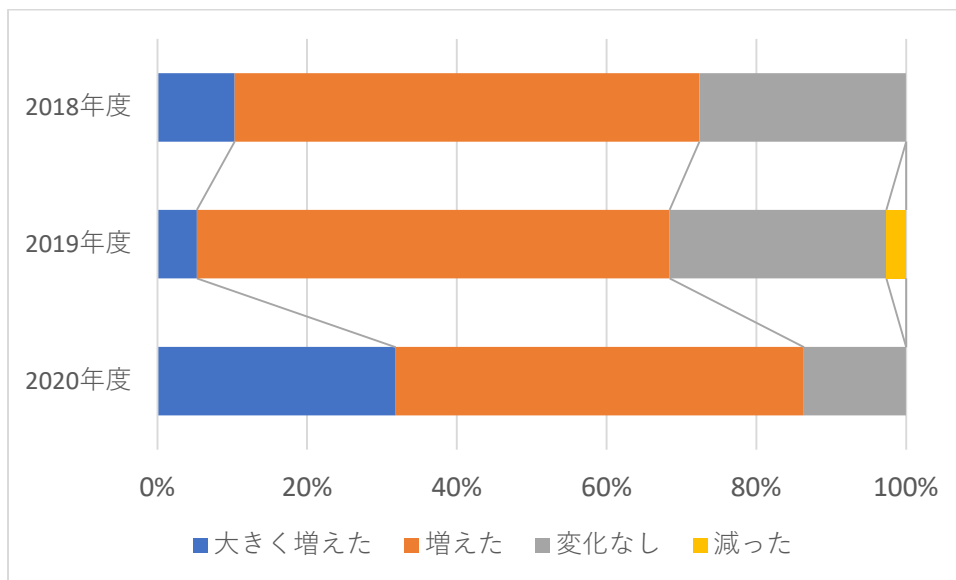
⑧時間を効果的に利用する能力



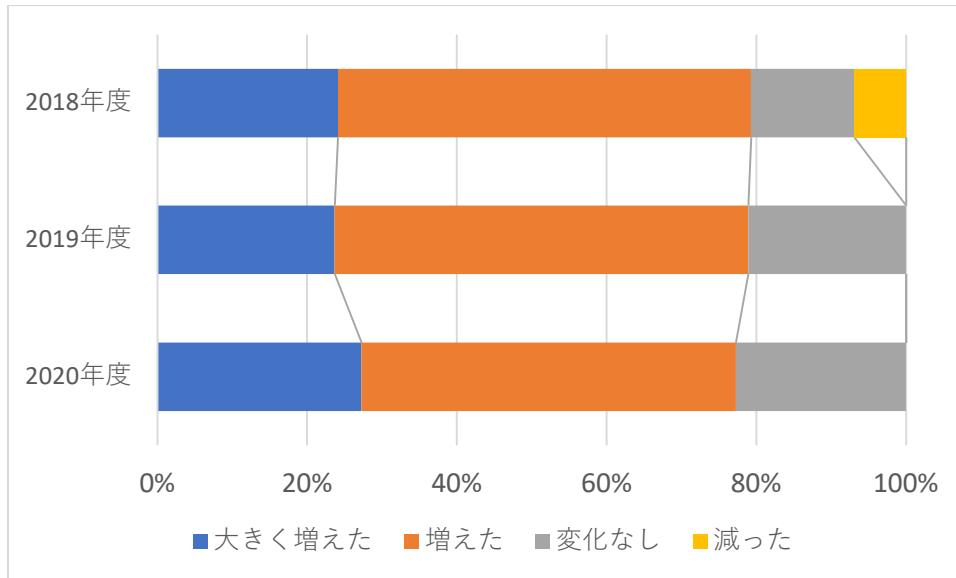
⑨批判的に考える能力



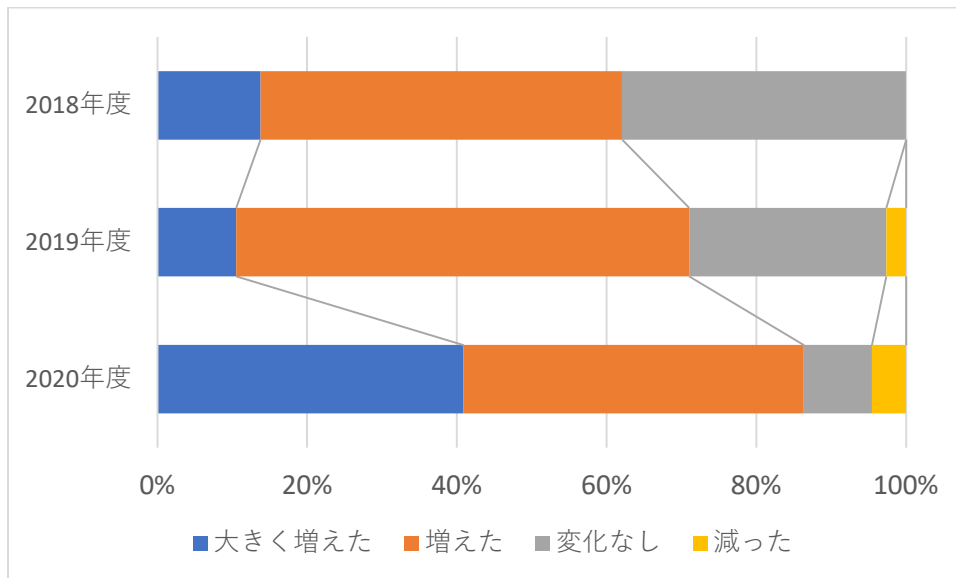
⑩リーダーシップの能力



⑪文章表現の能力



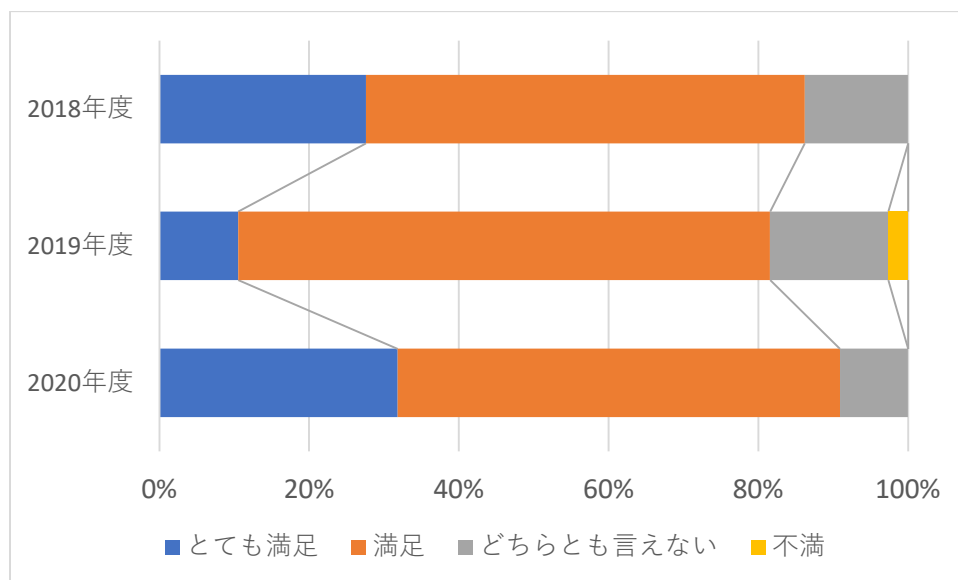
⑫コンピュータの操作能力



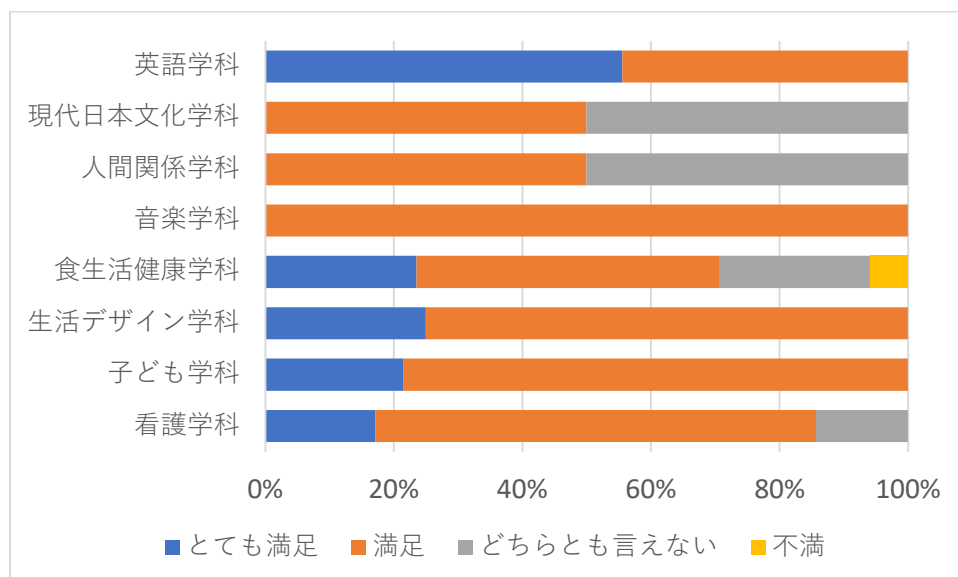
2. 教育・研究の満足度について

【質問】 本学の教育・研究に満足していましたか。

2-1. 年度別



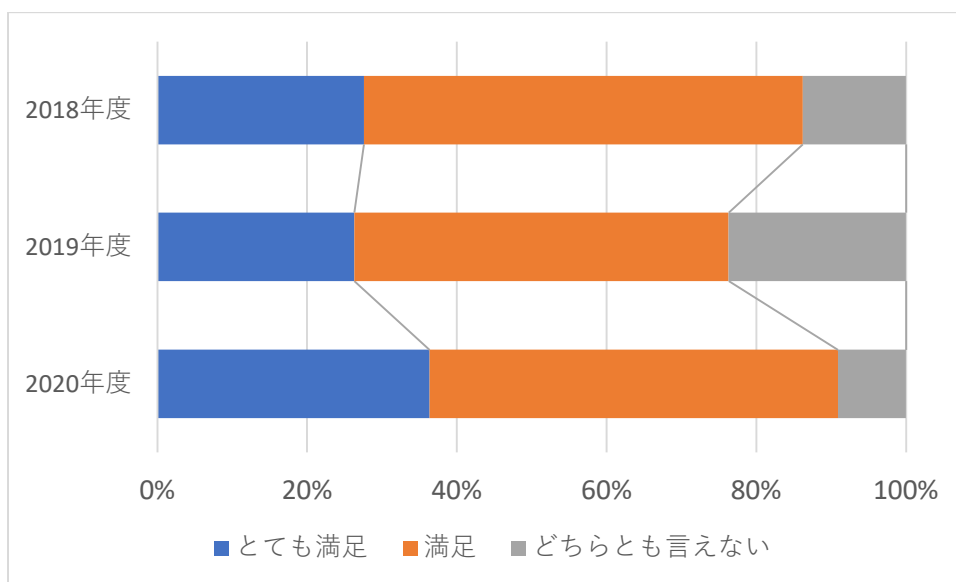
2-2. 学科別



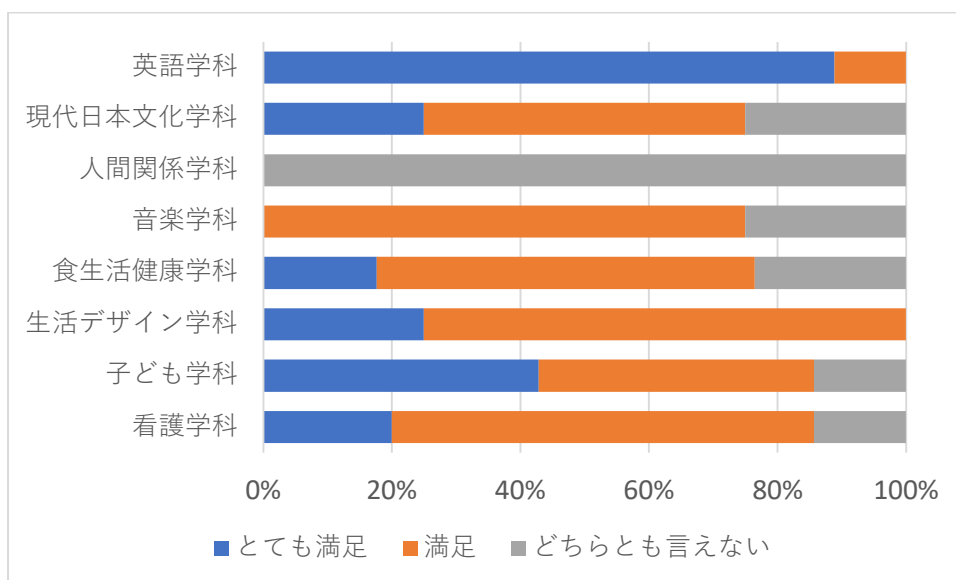
3. 大学生生活全般の満足度について

【質問】 大学時代の生活全般に満足していましたか。

3-1. 年度別



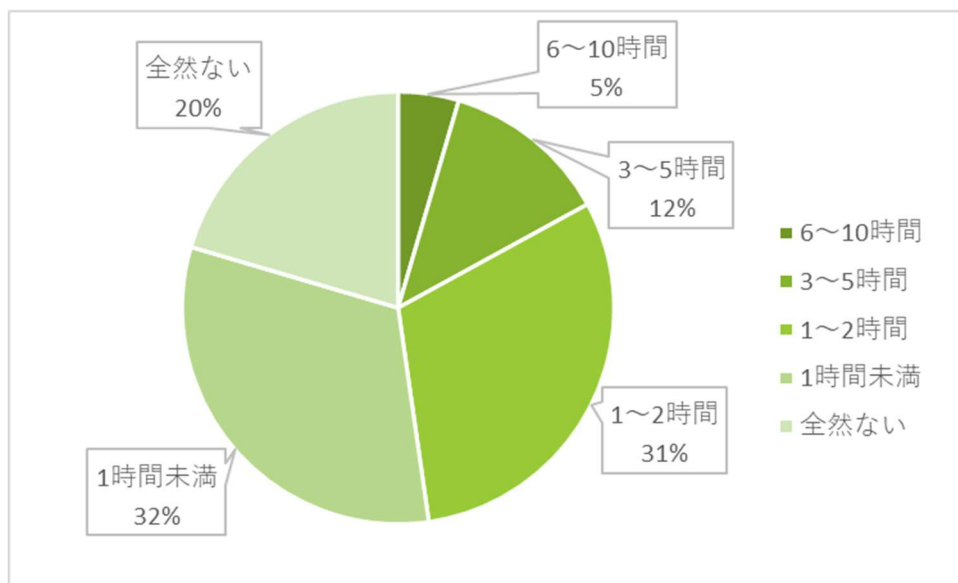
3-2. 学科別



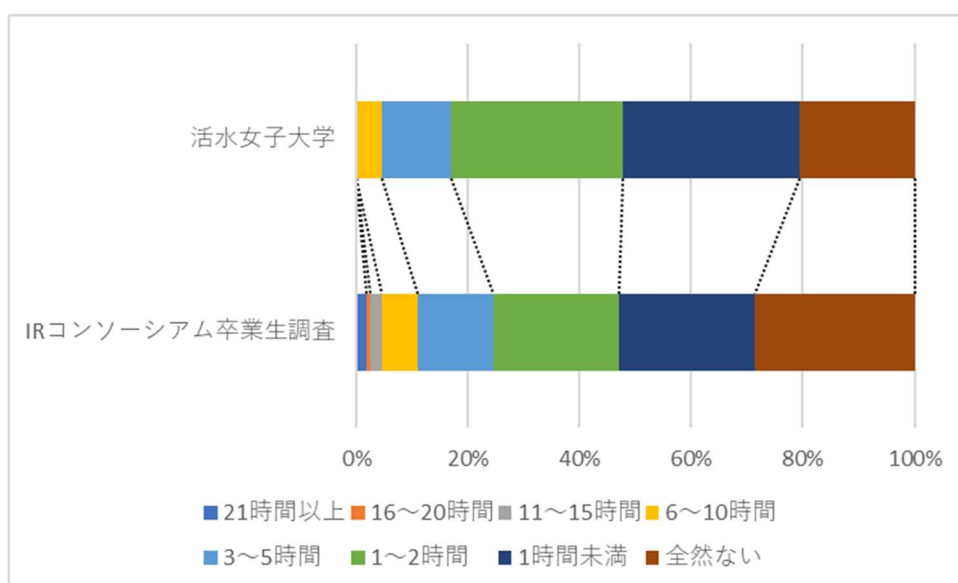
4. 勤務外学習時間について

【質問】勤務時間以外で、自らを向上させていくための学習にどれくらいの時間（一週間あたり）を使っていますか。

（活水女子大学）



2021 年度大学 IR コンソーシアム卒業生調査に参加している大学（卒後 5 年、10 年、15 年の卒業生対象）との比較

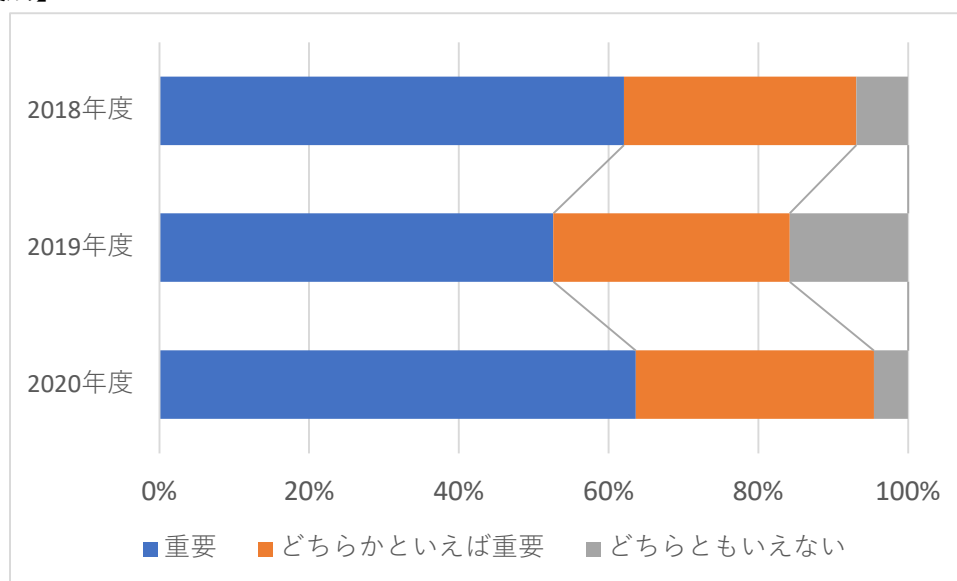


5. 大学時代に身に付ける能力の重要性について

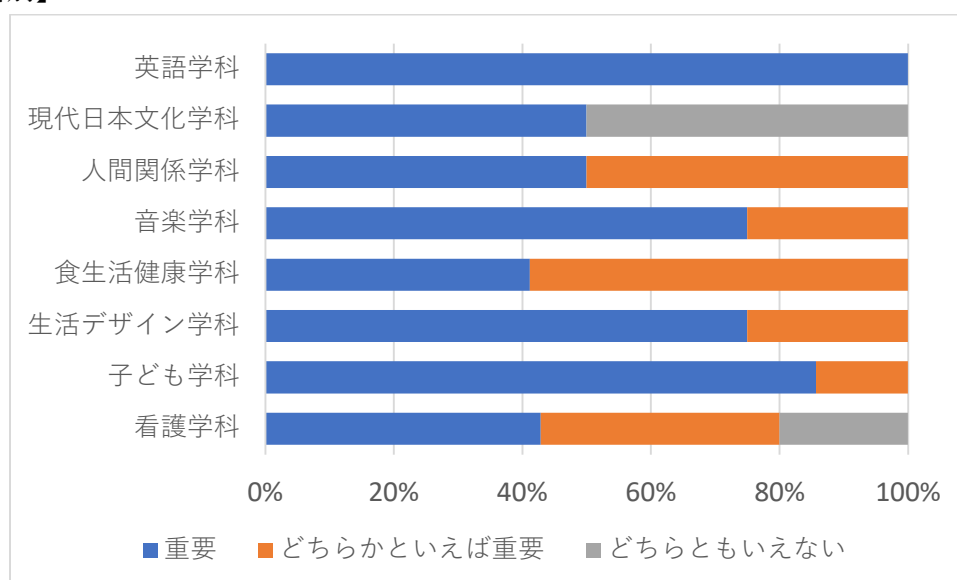
【質問】大学卒業後のあなたの社会経験を踏まえて、以下の能力を大学生時代に身に付ける重要性はどの程度あると考えますか。

①一般的な教養

【年度別】

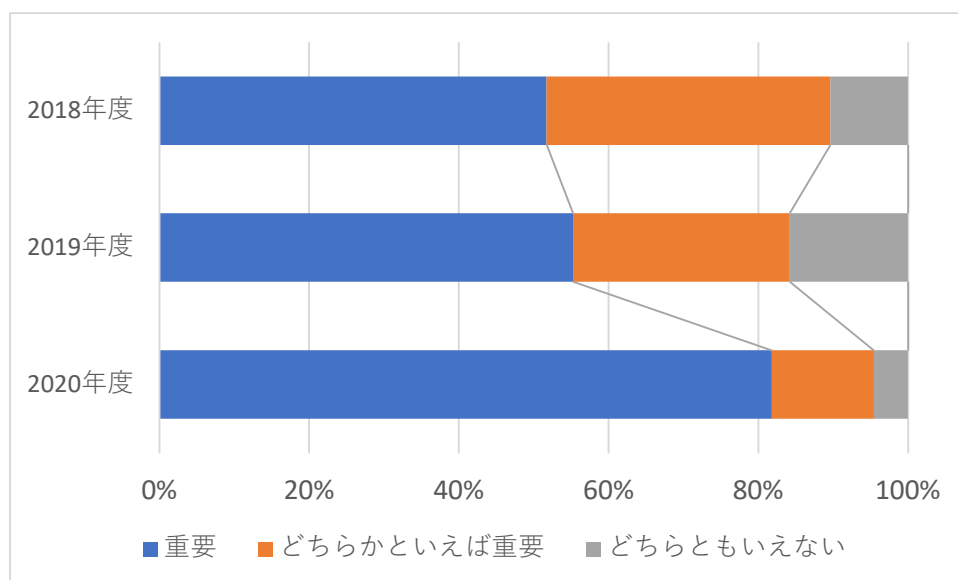


【学科別】

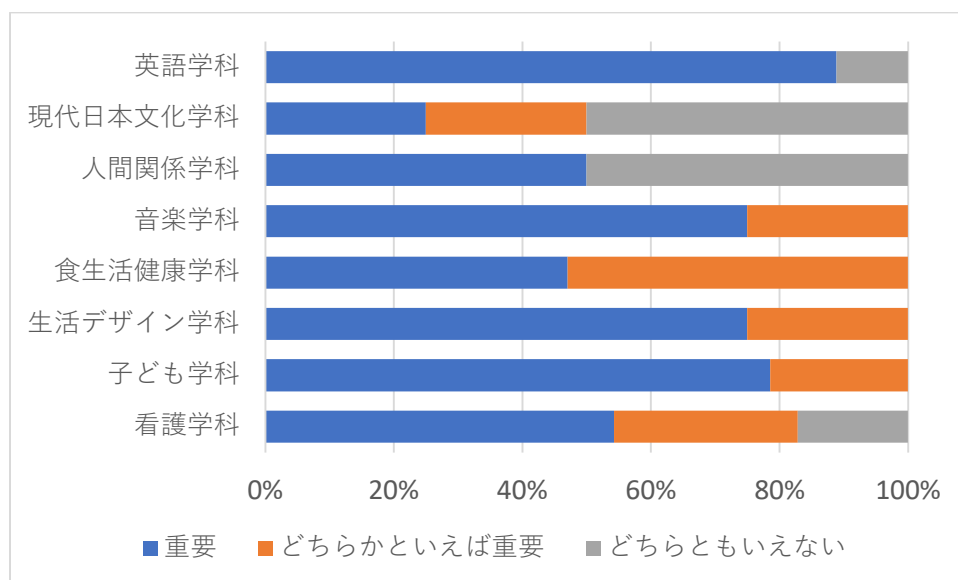


②分析力や問題解決能力

【年度別】

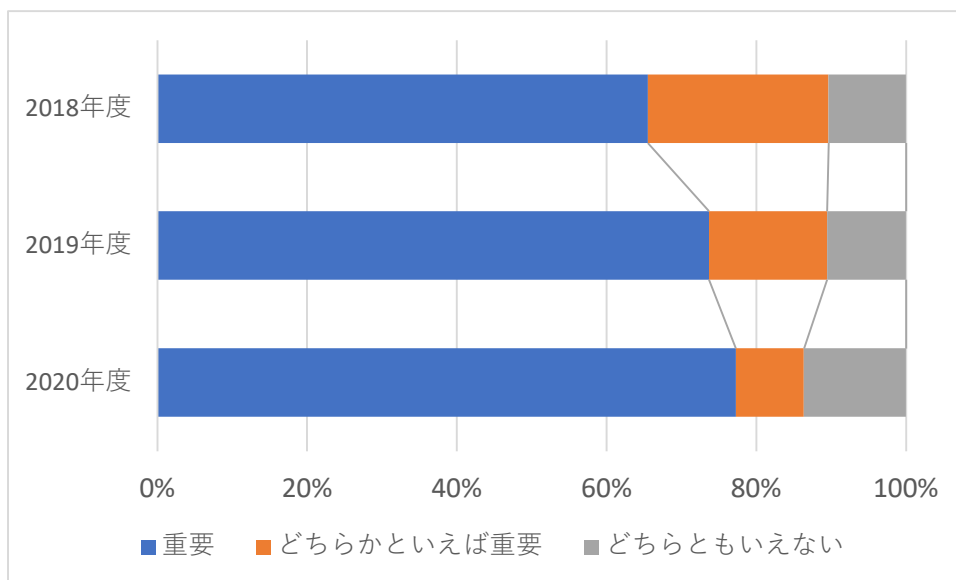


【学科別】

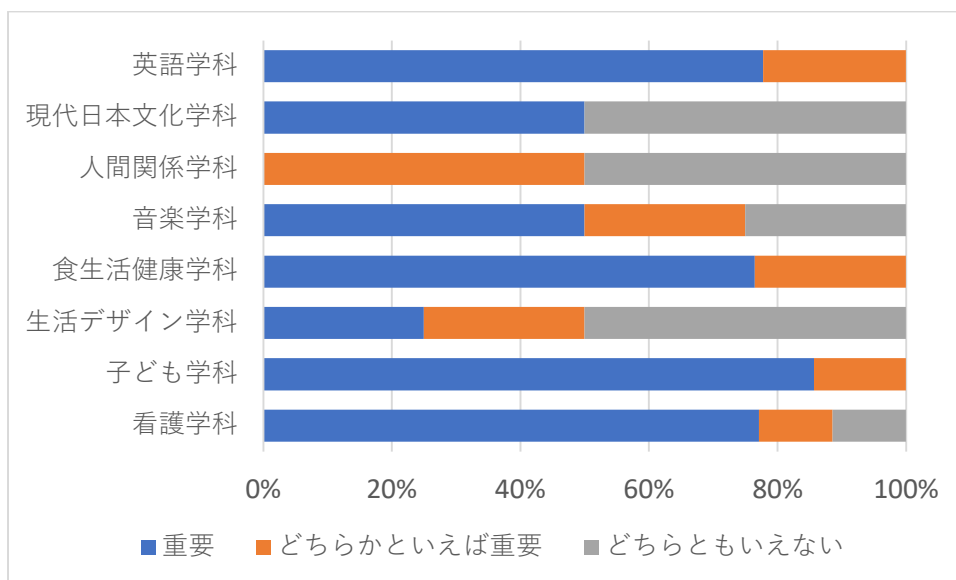


③専門分野や学科の知識

【年度別】

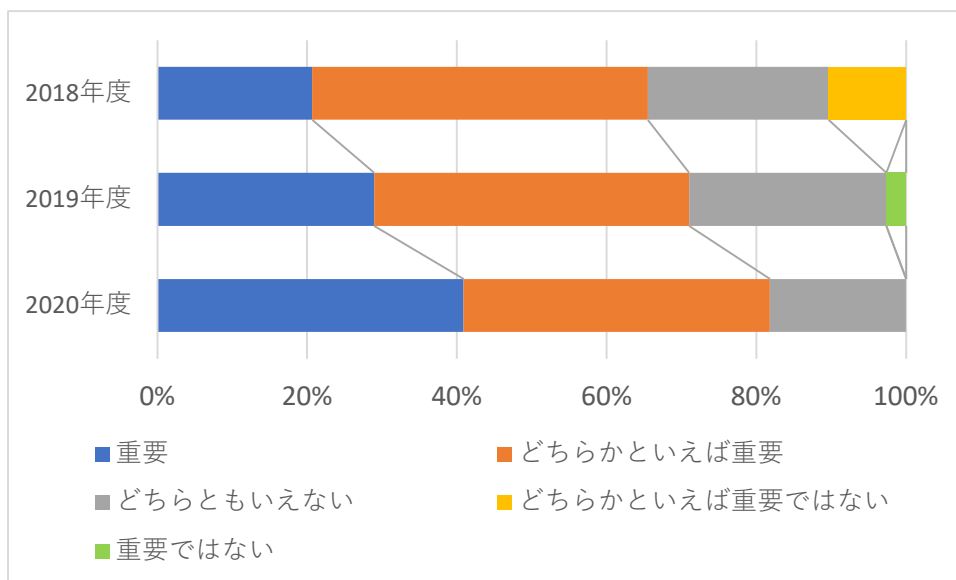


【学科別】

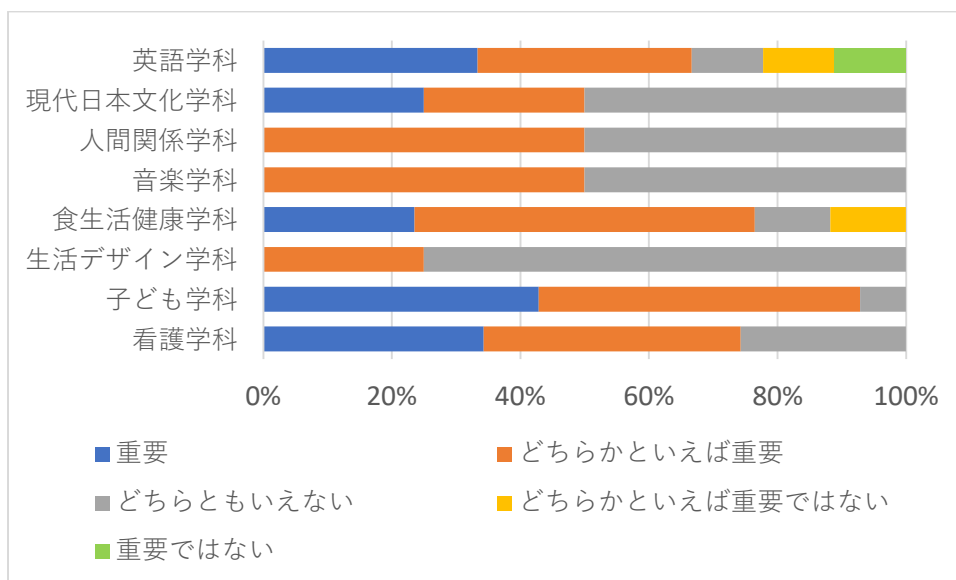


④批判的に考える能力

【年度別】

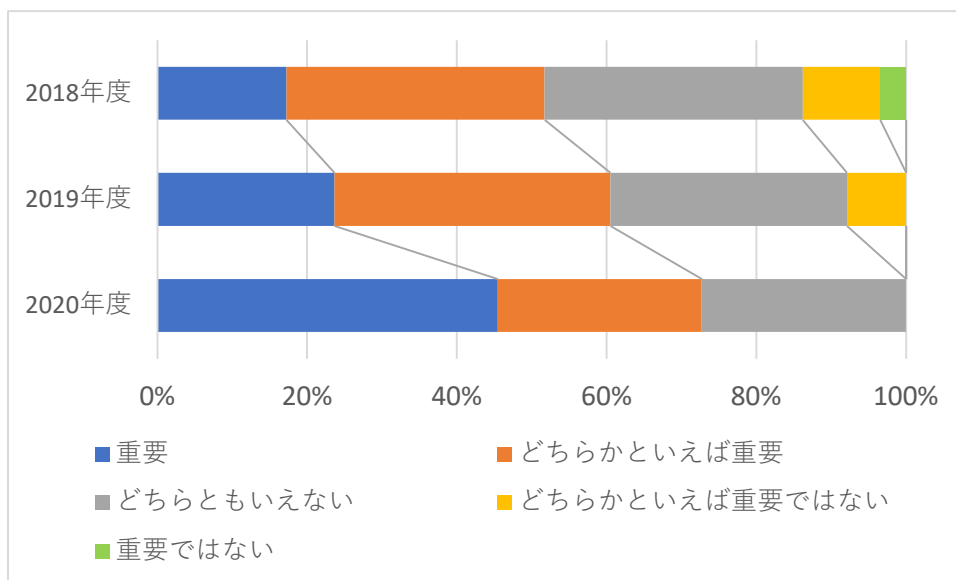


【学科別】

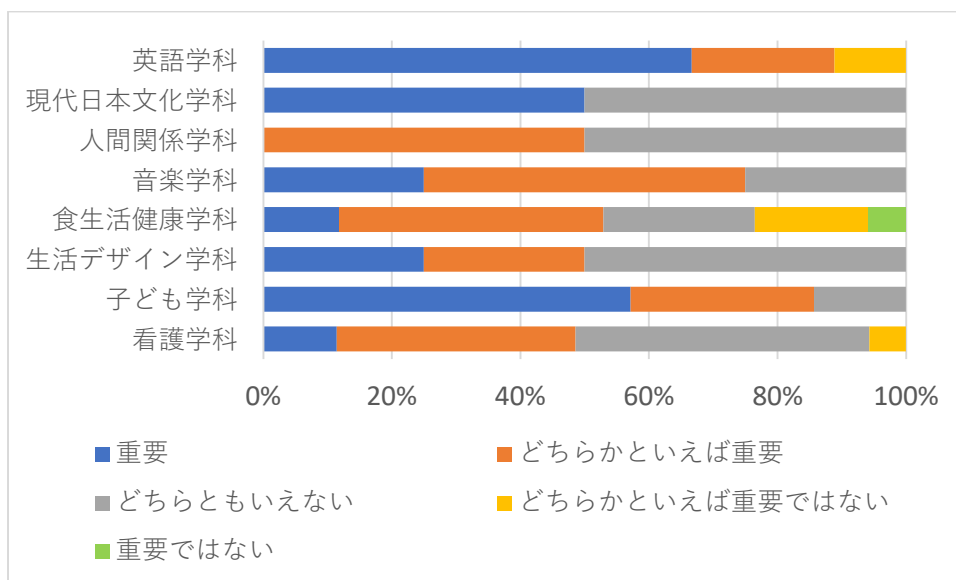


⑤異文化の人々に関する知識

【年度別】

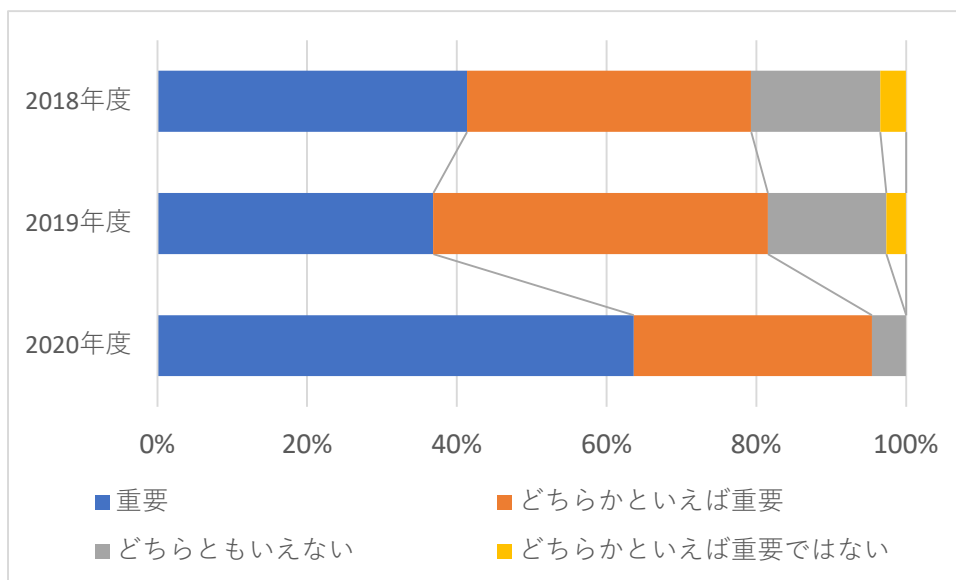


【学科別】

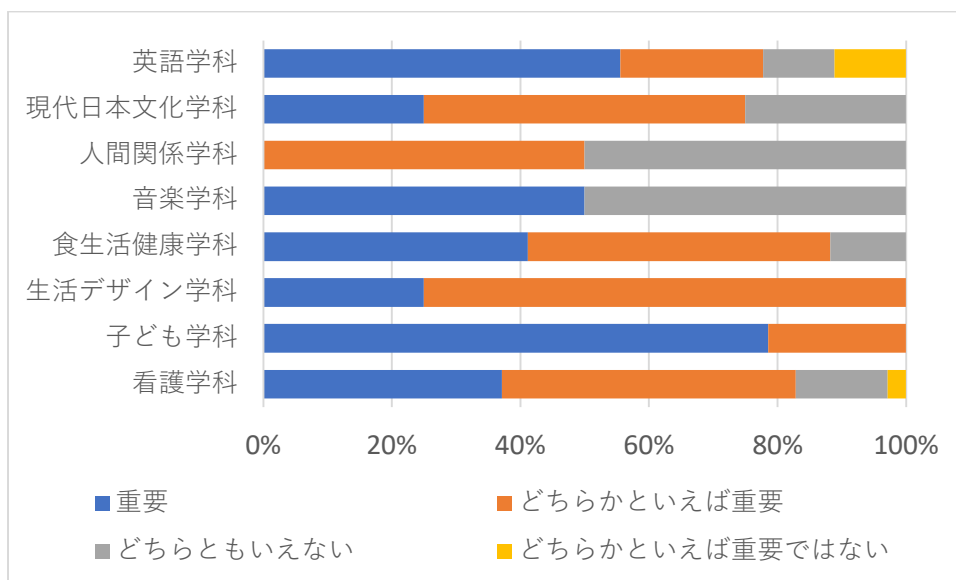


⑥リーダーシップの能力

【年度別】

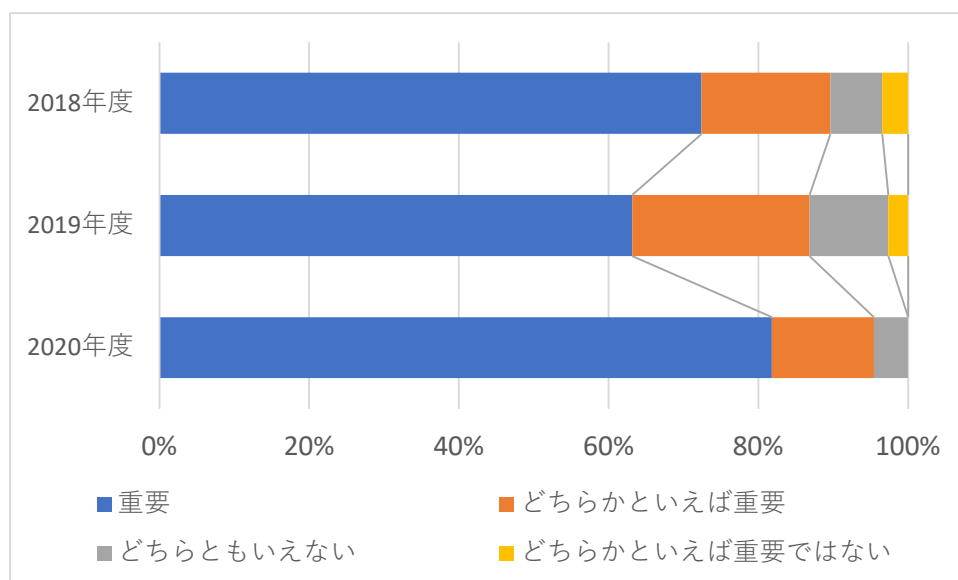


【学科別】

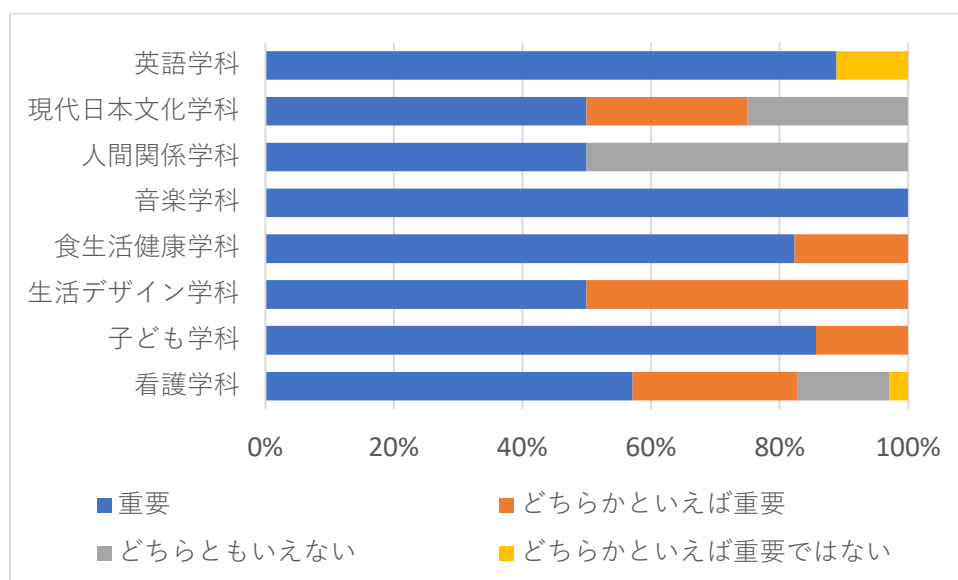


⑦人間関係を構築する能力

【年度別】

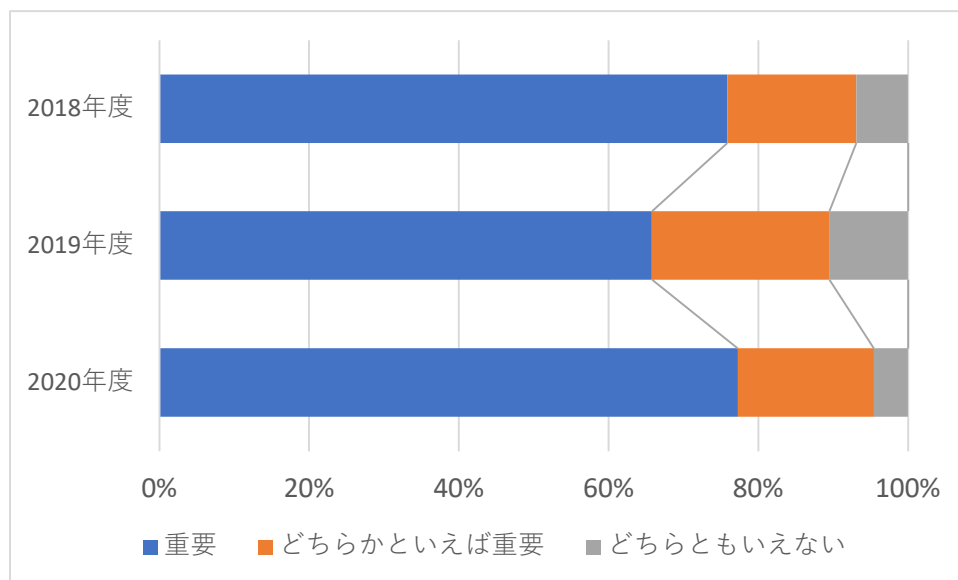


【学科別】

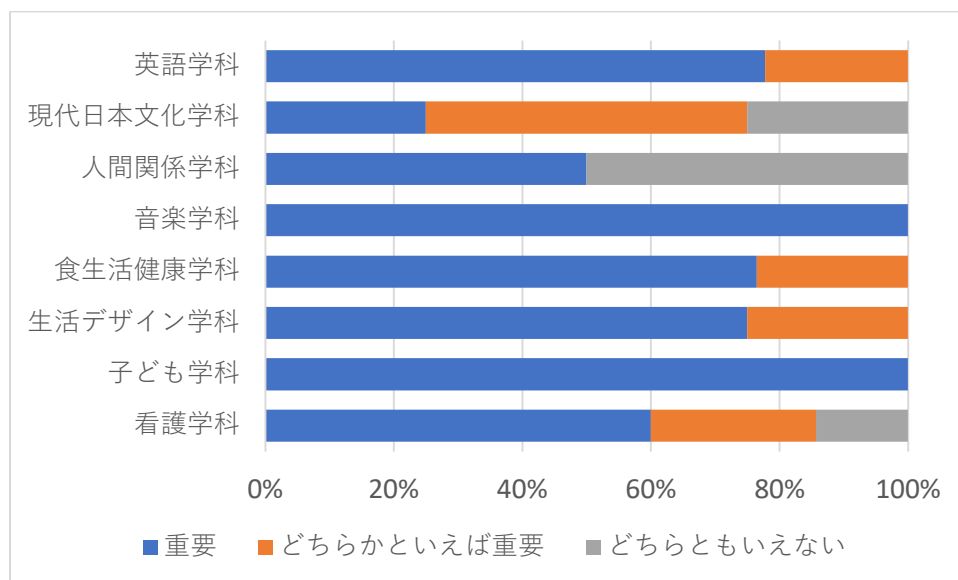


⑧他の人と協力して物事を遂行する能力

【年度別】

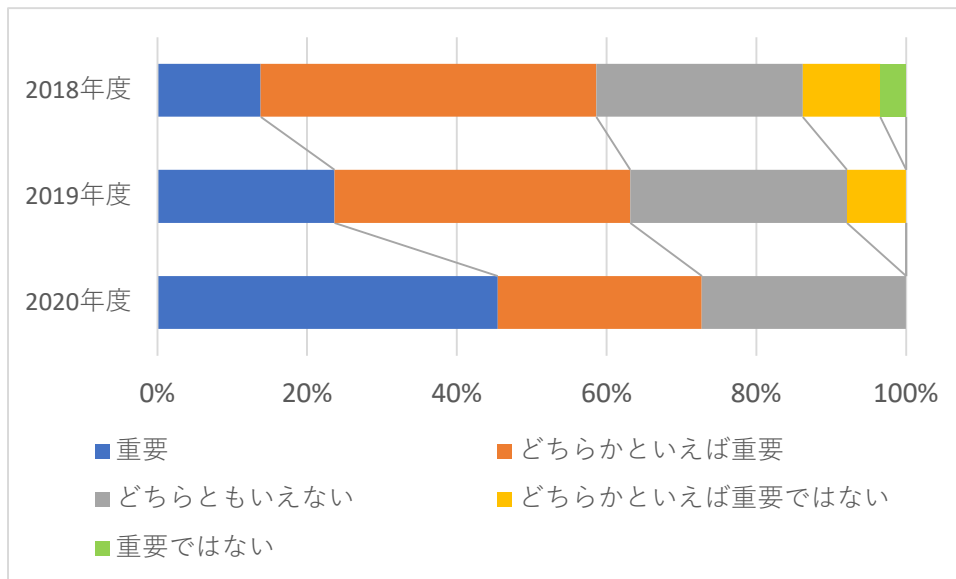


【学科別】

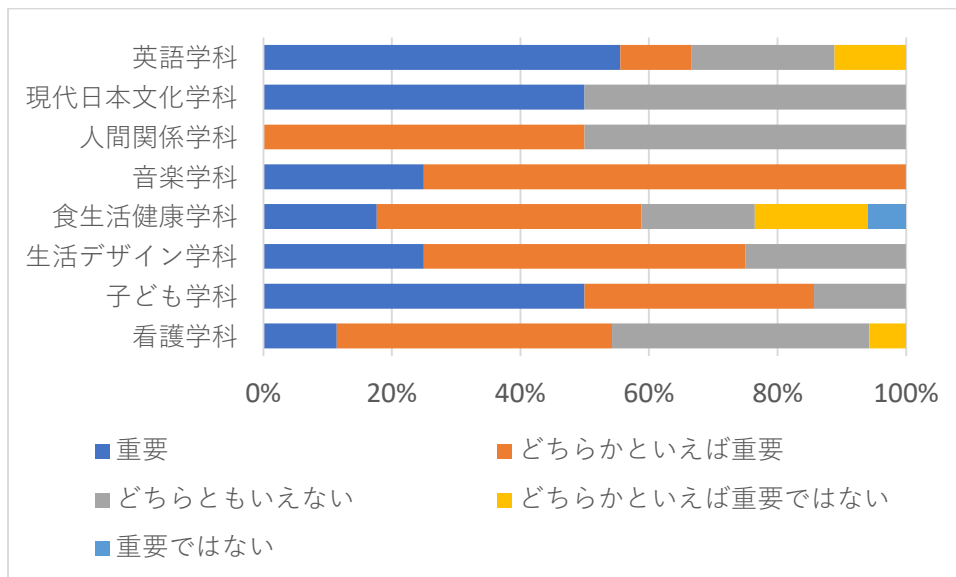


⑨異文化の人々と協力する能力

【年度別】

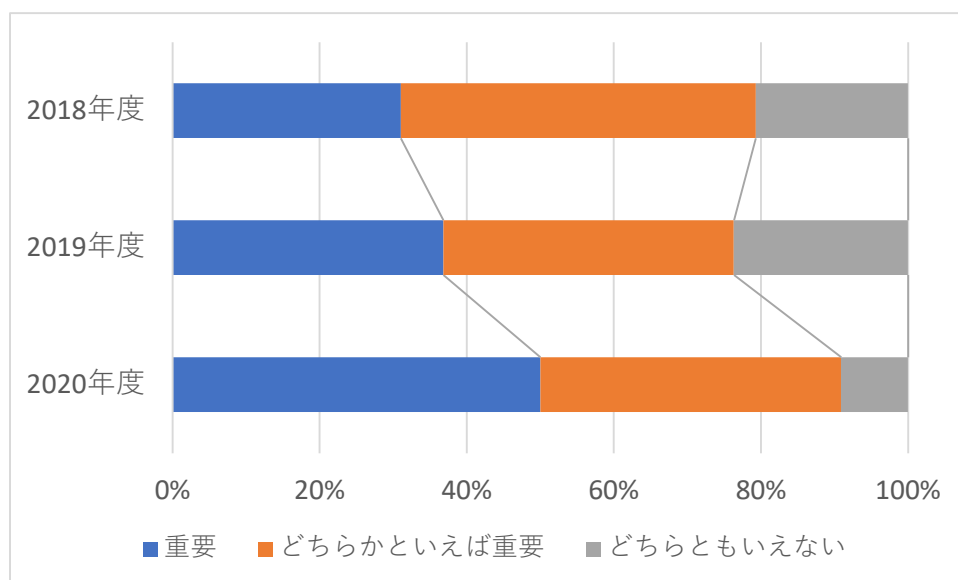


【学科別】

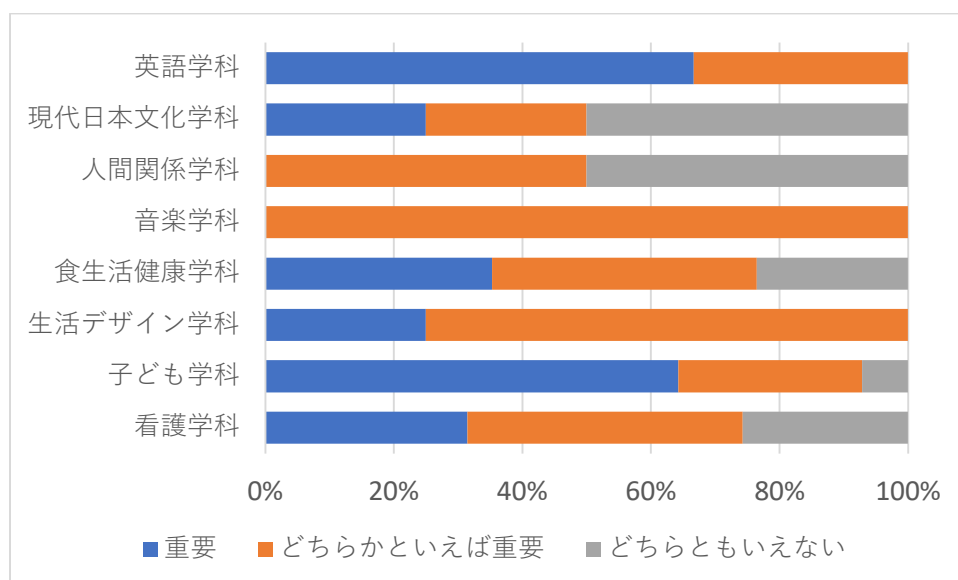


⑩地域社会が直面する問題を理解する能力

【年度別】

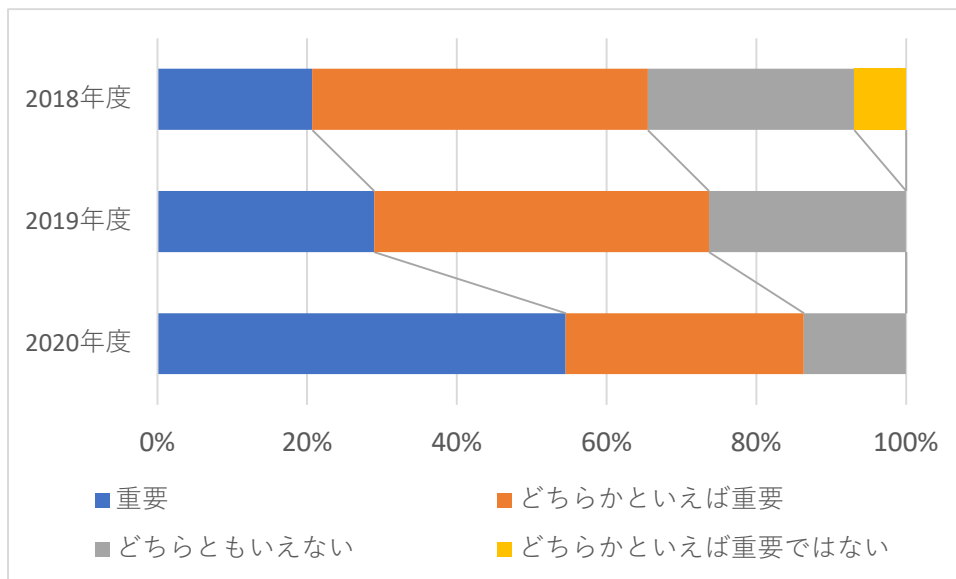


【学科別】

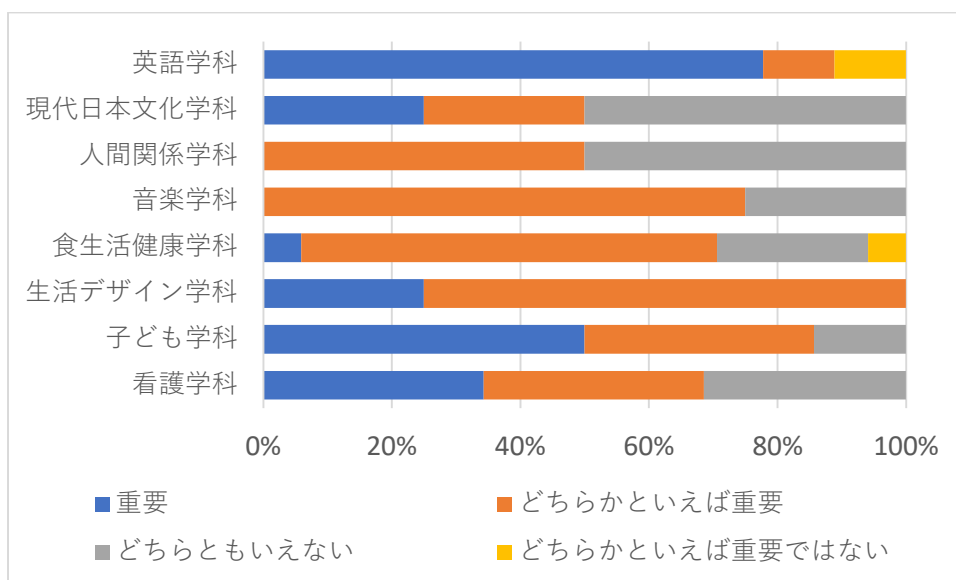


⑪国民が直面する問題を理解する能力

【年度別】

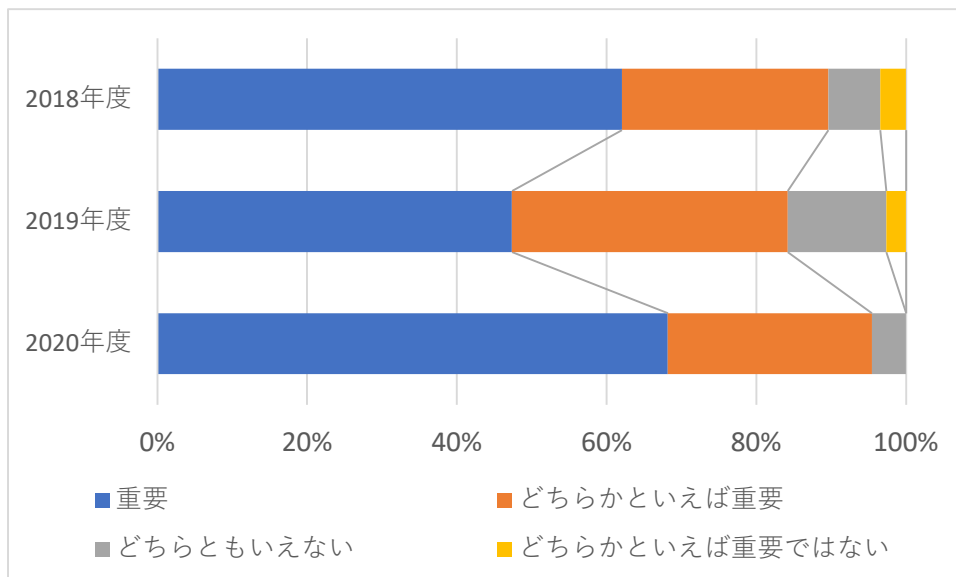


【学科別】

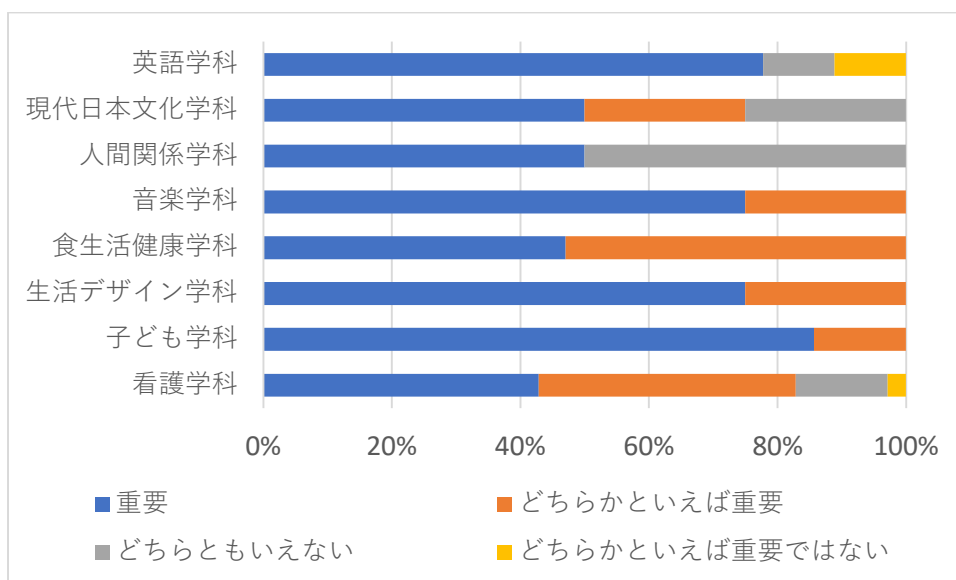


⑫文章表現の能力

【年度別】

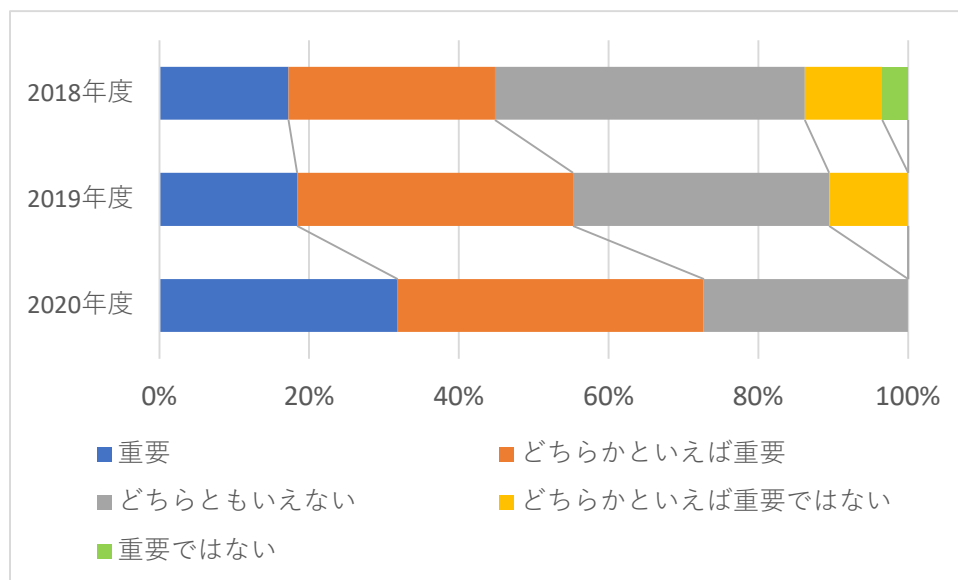


【学科別】

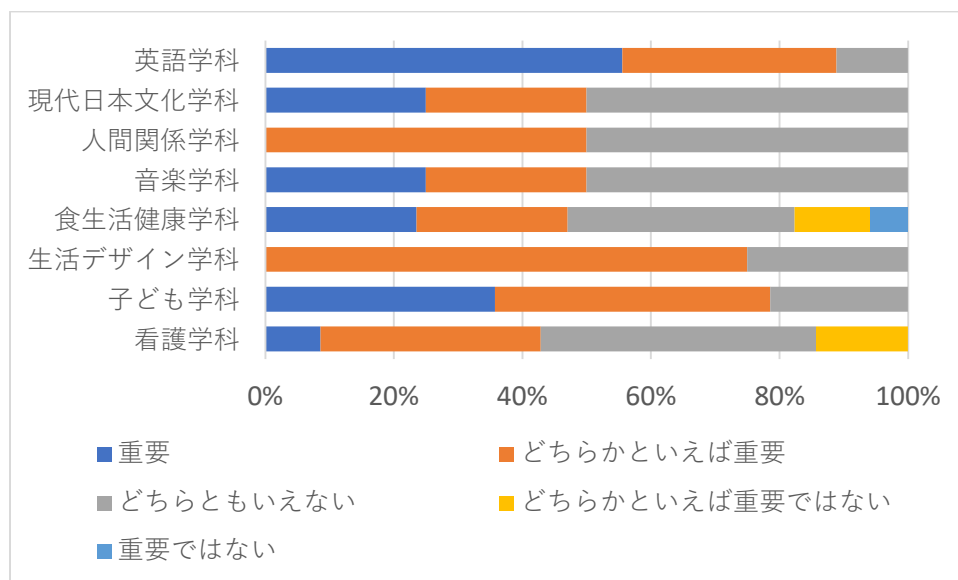


⑬外国語の運用能力

【年度別】

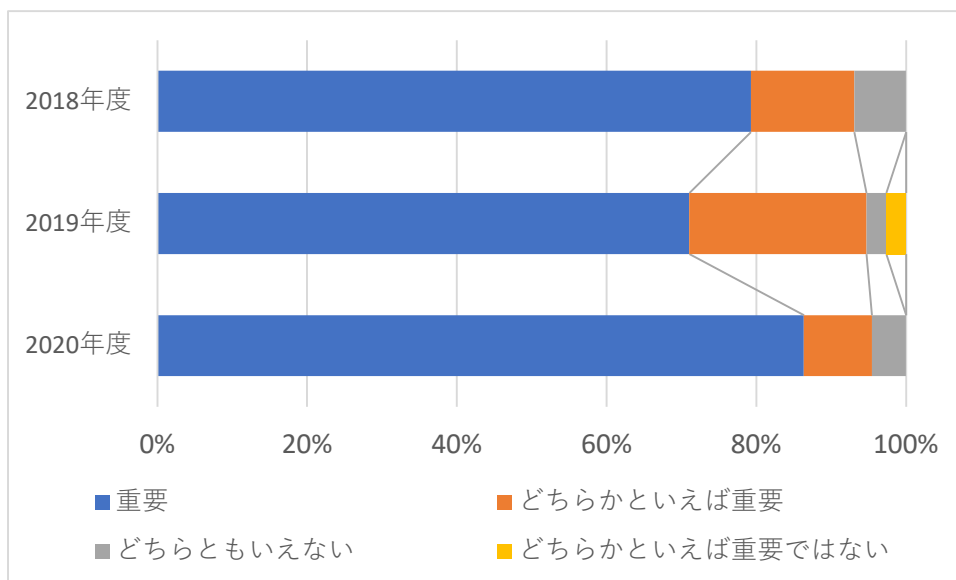


【学科別】

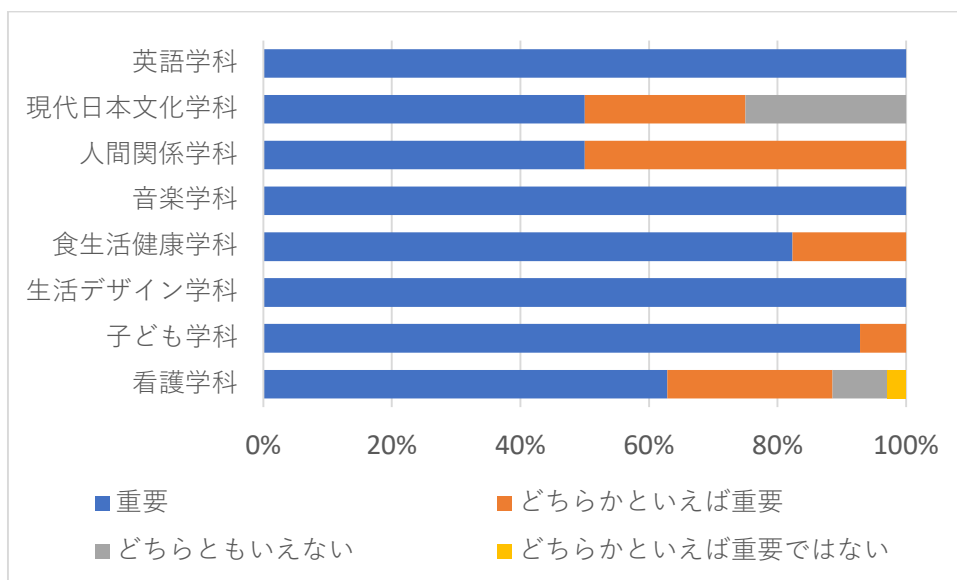


⑭コミュニケーションの能力

【年度別】

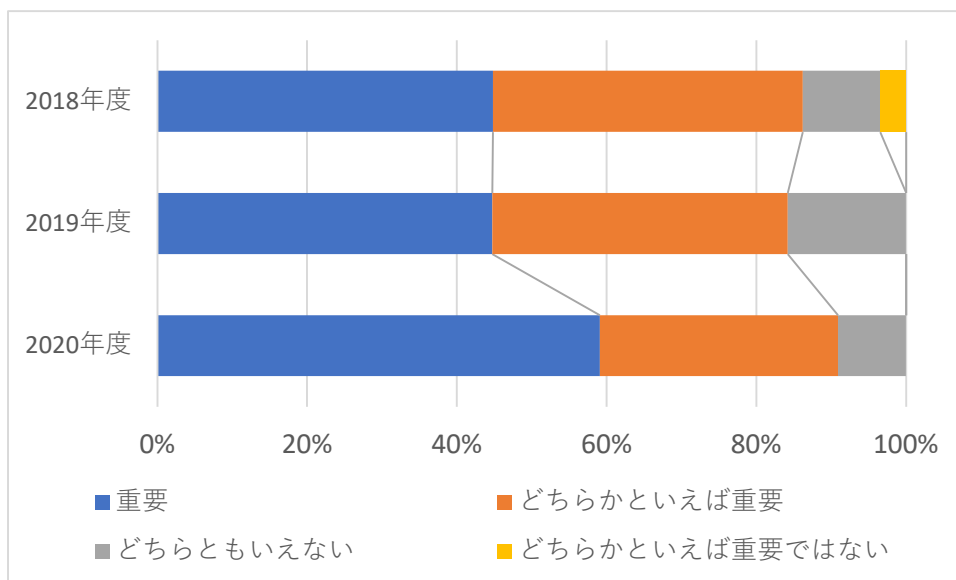


【学科別】

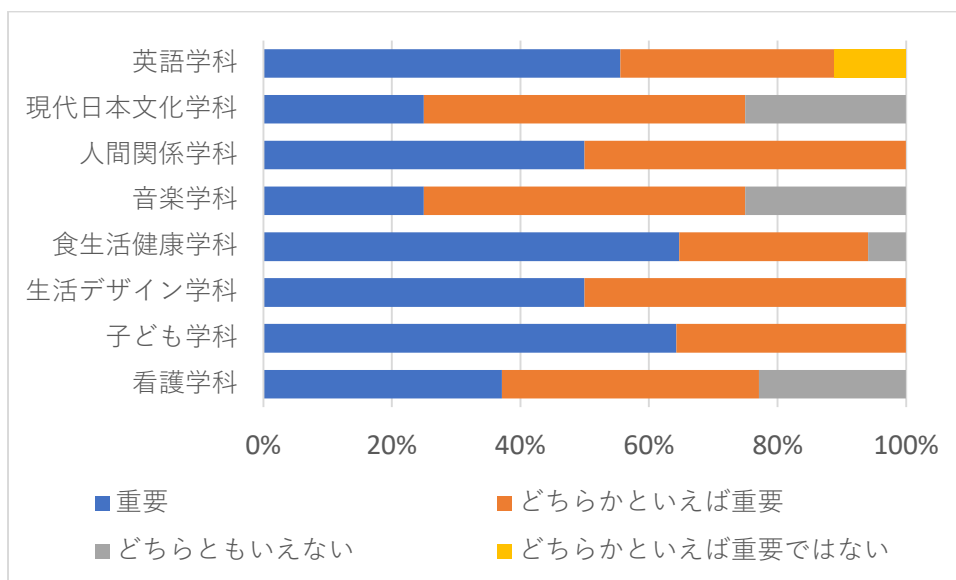


⑮プレゼンテーションの能力

【年度別】

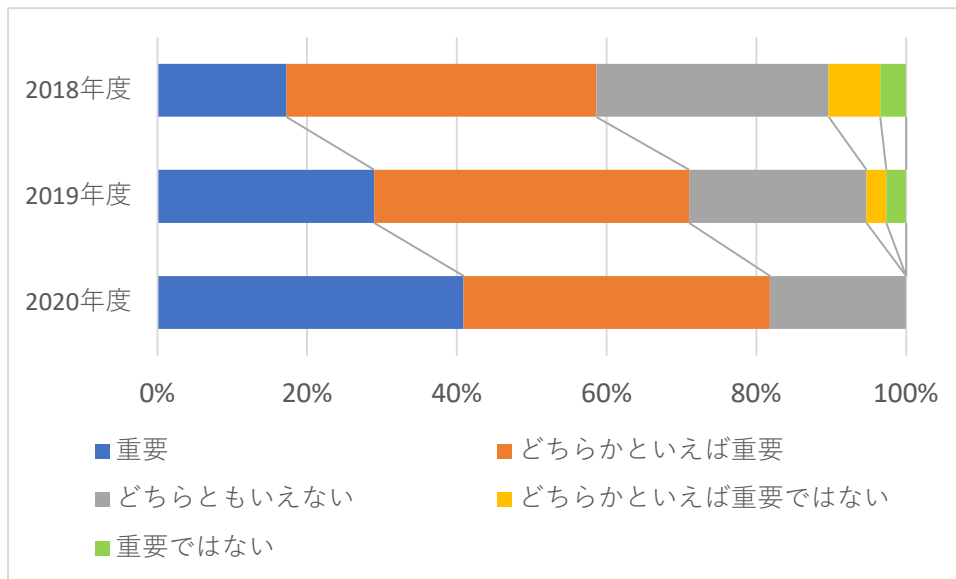


【学科別】

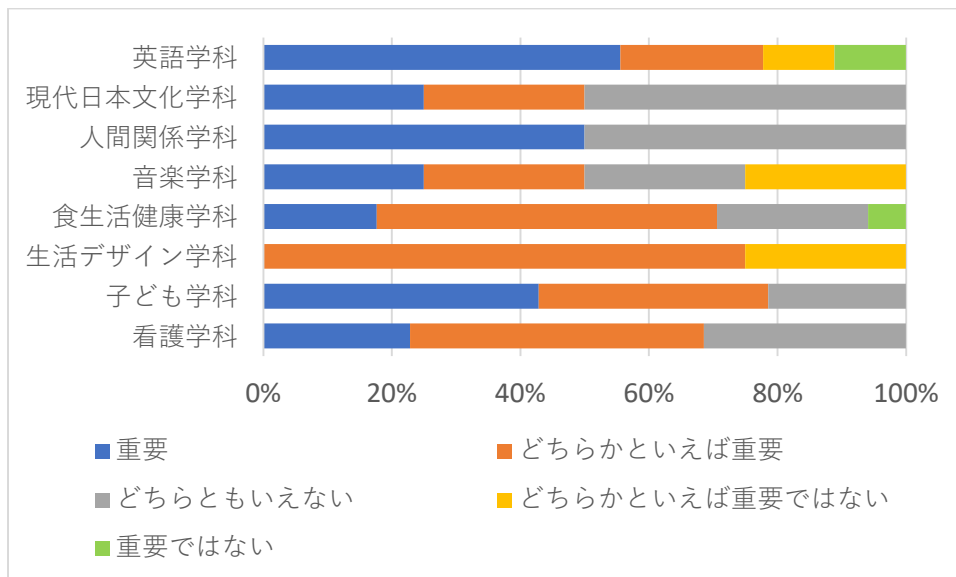


⑩数理的な能力

【年度別】

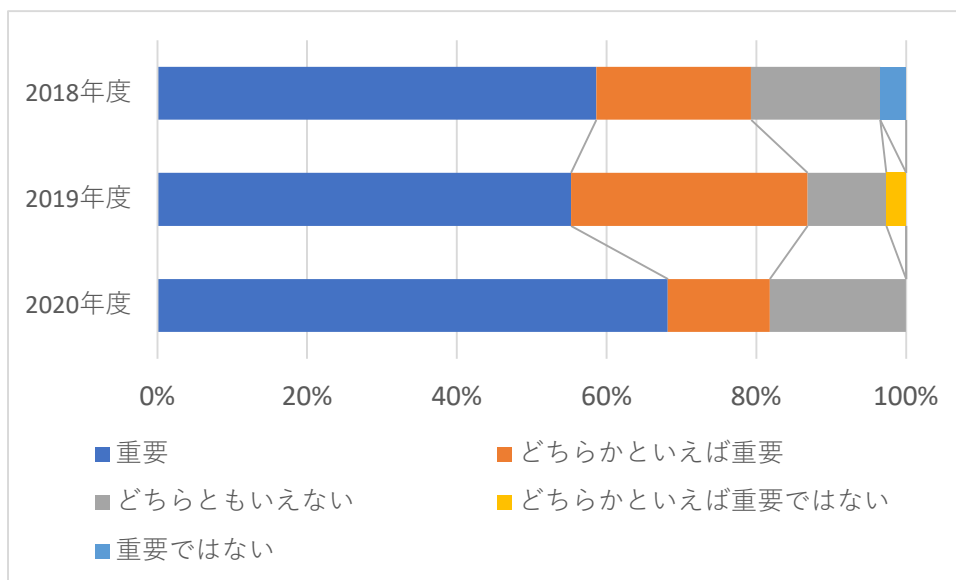


【学科別】

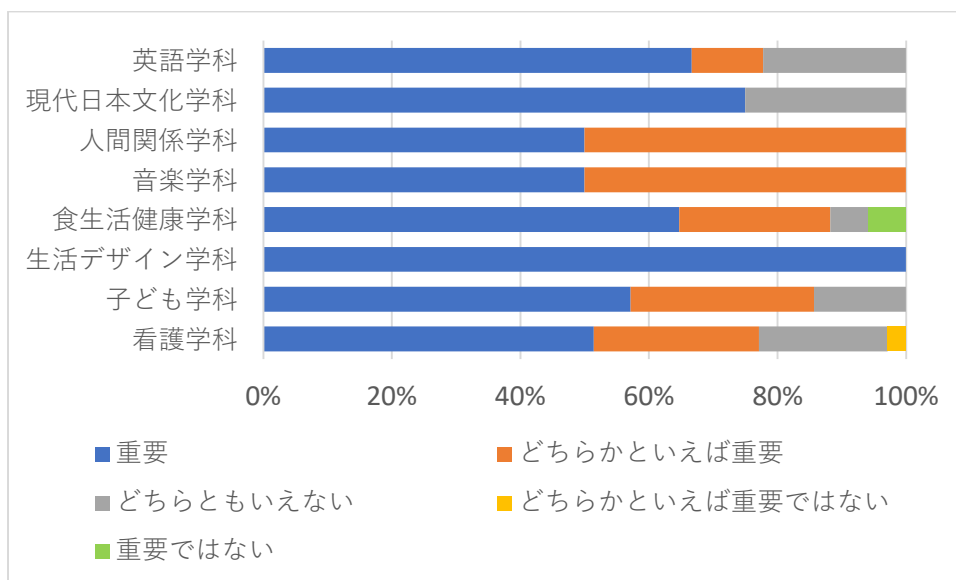


⑰ コンピュータの操作能力

【年度別】

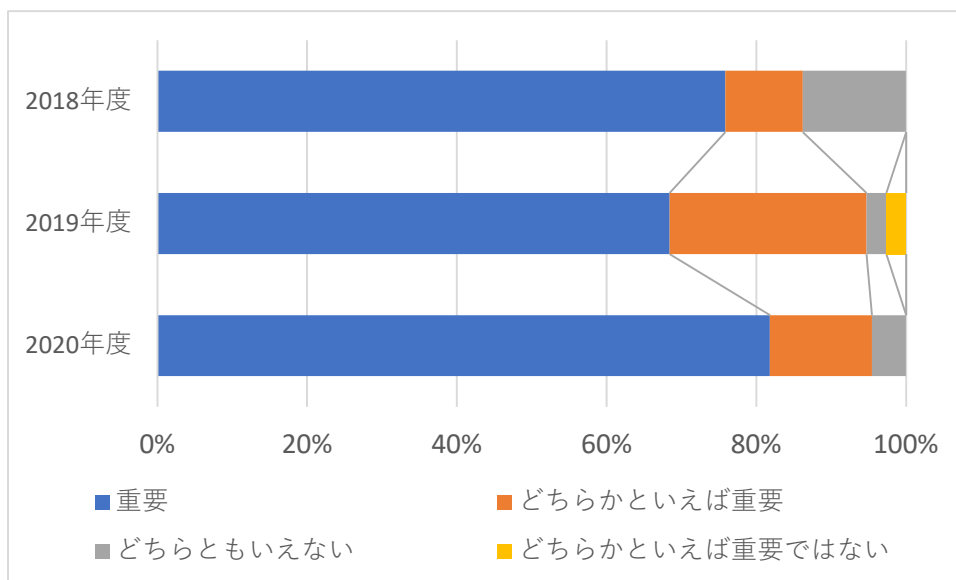


【学科別】

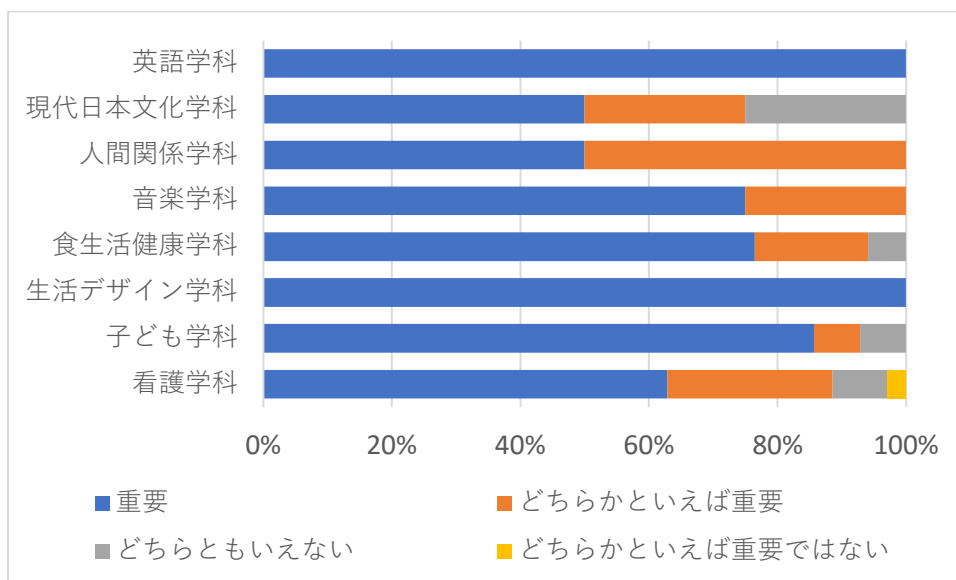


⑱時間を効果的に利用する能力

【年度別】

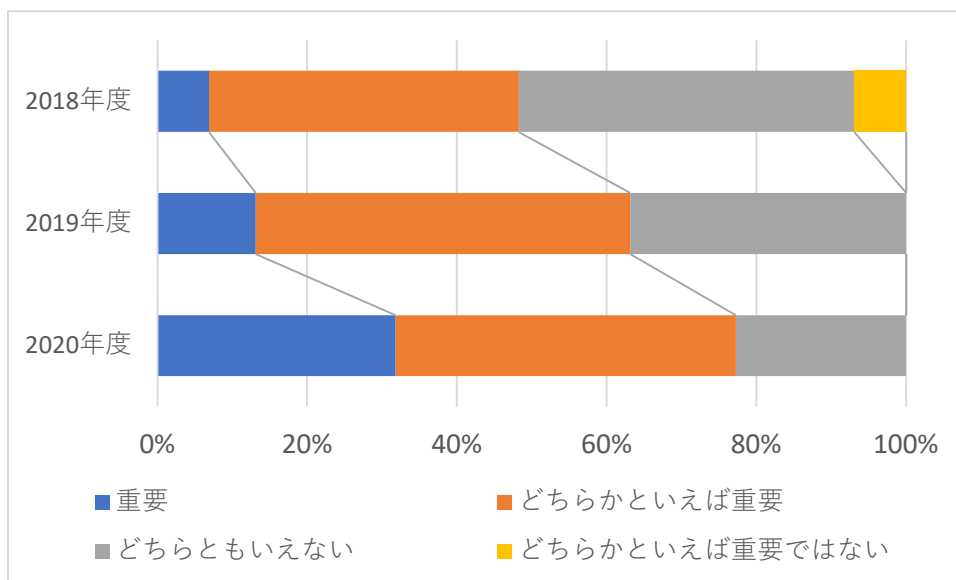


【学科別】

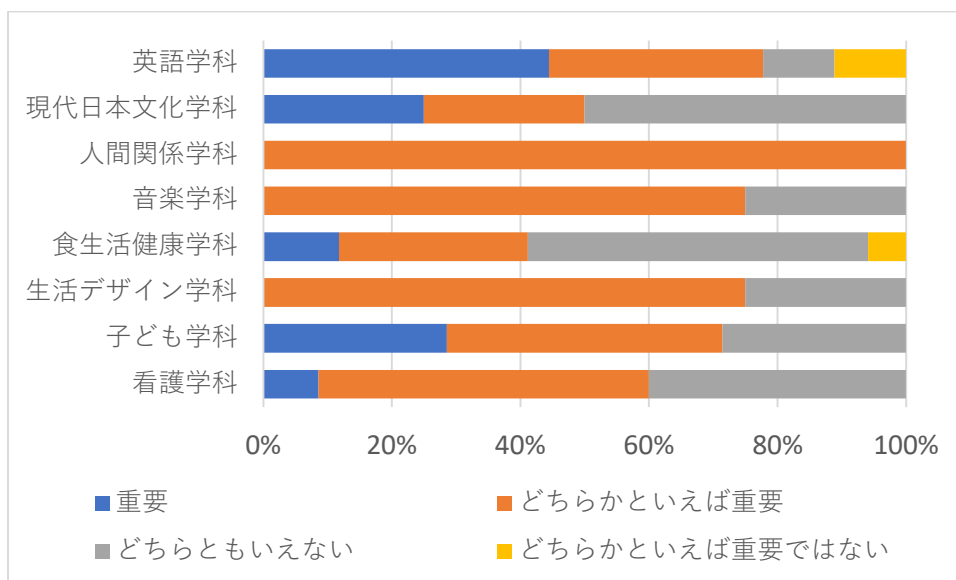


⑱ グローバルな問題の理解

【年度別】



【学科別】



6. 大学時代に熱心に取り組んだもの

【質問】大学の授業科目や課外活動について、どの程度熱心に取り組みましたか。

